



蘭使日本紀行 八

ル 3
1138
8



門ル3
號1138
巻8



ヲ巡行セシムル後海濱ノ濶所ニ導キ舟ニテ送
リ出セリ其群中ノ七人ニ豊後殿大ニ意ヲ用ビ
タリ則チトマスキビオイウスハウリエス仲田
レオナルジユス作左エ門ヨアンネス権左エ門
ゼニシウスジネスマリア及カラハ是仲田ノ妻
ナリ此輩大ニキリスト教ヲ信シ且ツ之ヲ播キ
タレハナリ上ニ記スル原野ニ七穴ヲ掘ル深サ
三ハルム幅六ハルムナリ各々相隔離ス各穴ニ
大柱ヲ建テ上端ニ桁アリ十字ノ式ニテ釘固ス
罪人下ニ坐ス西臂ヲ桁ニ延シ固縛スニ枚ノ厚

キ板アリ。半月状ニ凹ム。頭ニ枷ス。以テ頭ヲ高举シテ。頤カサラシム。豊後自テ此處置ヲ檢閲ス。作左エ門先ツ右臂ヲ徐々ニ鋸断シ。更ニ固定セル頭ヲ銳齒ノ鑪ニテ擦ス。創所ニ塩ヲ撒ス。此ノ如ク鑪スルヲ五日縛ヲ弛メス。又少休歇ナシ。獄吏屢交代シテ拷問ス。醫員傍ニアリ。裁官ノ命ニ應シテ強心劑ヲ注射ス。罪人ヲ除々ニ死ニ就カシムル為ナリ。

他ノ四十三人ハ毎日或ハ隔日ニ拷問ス。然レモ第三日。第四日ニ及ヘハ手足ヲ銳角ナル木上ニ

置キ。膝ニ重石ヲ抱カシム。夜ニ及テ市中ヲ経テ寺ニ荷ヒ行キ。觀者ノ嘲弄ニ任セ。時々銳木ニテ顛落セシム。牢内ニテハ炬火ニテ燒キ。爪間ニ鍼刺シ。桶水ヲ漏斗ニテ口ニ注入シ。復々之ヲ吐出セシム。四十三人ハ早ク死セリ。ミカール宗三郎ハコンバノ子ナリ。此人ノミハ然ラズ。又別ニ島原ニ七人アリ。第五日ニ五人死セリ。最後ノ夜ニ仲田亦氣絶セリ。唯トマスシビオイラス。ハ七日間拷問ヲ堪ヘタリ。千七百三十年五月末日。斬首セラレ。他ハ十字架ヨリ卸サレタリ。然レモ仲田

作左工門及ヒ權左工門ハ法教ヲ改宗シタレ氏
豊後殿ノ命ニテ斬首セラレタリクラハ苛責
ニ耐ヘス未夕拷問ニ及ハサルニ氣絶シテ早ク
死セリ權左工門ハ氣絶スルノ後蘇生シタリ故
ニ頭ヲ鋸断セラレ更ニ刀ニテ縦割セラレリ
シキユオ島上富岡町ノ外ノ平野男女及ヒ小兒
ニ供スル各種ノ十字架ヲ立ツ此各十字架相密接
シテ罪者踵相踏ミ前ニモ側ニモ身ヲ動カス
ヲ得ス天井ニモ四壁ニモ焚材山積ス十字架上
ニ在テ終夜看護セララルヲ以テ氣倦ミ体疲レ多

高橋氏家系

ク絶命スルニ至ル又天草ニ於テ家屋窓戸ヲ釘
閉シ全家饑餓ノ為ニ死ニ至ルアリ
千六百五十三年將軍東照宮様薨ス子ナシ内府
様ノ末葉第二節ニ及テ絶ス血縁モ近キハ二
十五歳以内ナルクワネ候ナリ此人東照宮様薨
後直千ニ職ヲ継クヘキナリト加賀殿豊後殿イ
ンハノ大炊殿及ヒ讃岐殿五執政之ヲ議決スロ
イマキリストハ今全ク滅絶セリ故ニ其嚴禁ノ
令モ漸次ニ廢止セリ政府官吏モ異國人ノ事ハ
意トセサルニ至レリ將軍ノ代替リニ隨テ國政

ノ方向モ自ラ一変セリ。此時高賈者自國ヲ出ル者アルモ。黙評シテ敢テ十字架ヲ言フ者ナシ。西班牙人亦中絶シタル商業ヲ復センカ為ニ熱心セリ。日本人自ラ國外ニ出テ貿易スルハ。久時間体止シタル所ナリ。就中イ、ソイテンカラ得テ。日本ノ近隣ニ群来シ。則チ東京交趾及ヒ他地ニ散蔓シテ。日本ニ到リ往時ノ許可ヲ復スヘキ好機會ヲ待テリ。然ルニ將軍クワネノ執政等。殊ニ羅瑪僧徒ノ渡来ヲ拒ムニ注意スルヲ以テ。未タ志ヲ得ルニ由ナシ。

但シ東照宮様ノ公告ノ如ク嚴酷ノ制度ニ隨テ血刑ヲ加ヘタルニアラス。クワネ日本將軍ノ職位ヲ蹶クニ方テ。如何ノ制度タリシヤヲ考ヘサル可ラス。蓋シ東照宮様ニハ寶子ヲ遺サレハナリ。抑モ此將軍ハ非常ニ男色ヲ好メリ。此ノ如キ一二年。繼位スヘキノ實子ナシ。誰カ後ニ當ルヘキヲ知ル者ナシ。故ニ若シ將軍無子ニテ薨去セハ。國內再ヒ争亂ニ罹ルヘキノ恐ナキニアラス。内裡ニ於テモ此事ニ着眼シ。則チ其血統ニ近キ者ニ於テ二人ノ美女

ヲ奉テ之ヲ東照宮様ニ賜ヘ其一ヲ撰ヒ御臺猶女
將軍ト云トナシ婚セシム將軍自ラ最モ美ナリ
トスル者ヲ撰フ然レ氏尚舊ノ如ク男色ヲ好メ
リ故ニ御臺心竊カニ之ヲ憂フ然レ氏口惜ヲ忍
ビ若シ不満ノ意アルヲ悟ラルハ將軍ノ不首
尾ヲ誘ハシトヲ慮レハナリ御臺ノ乳母アリ此
意ヲ察シ竊カニ高年ニメ貴職ニ在リ血族ニメ
且忠勤ノ人ニ謀リ好機會ヲ俟テ將軍ニ忠告シ
御臺ヲ愛セシメシトヲ冀フ偶一日東照宮様ノ
機嫌好キニ乗シ是正ニ意中ヲ吐露スヘキノ好
時ナリトシ則チ曰ク我將軍貴重ノ身ヲ以テ何
ソ伉儷ノ情ヲ解セサルヤ男色ヲ愛スル抑モ何
等ノ理アルヤ豈ニ繼職ノ子ヲ奉クルヲ望ムヲ
勉メス今日日本全國ヲ掌握シ安穩ニ保存シ國
内ノ争乱ヲ拒キ群雄割據萬民塗炭ノ苦ヲ免カ
レシムルヲ求ムヘキニアラスヤ加之天子亦將
軍ノ為ニ美婦ヲ以テ配トナシタルニアラスヤ
世ノ為又將軍ノ為ニ考フルニ將軍ノ血統連綿
シテ絶セス日本全國ヲ永遠ニ傳ヘテ永久繁昌
スルノ謀ヲ慮ラサルヘケンヤ

將軍此忌憚ナキ直言ヲ聞キ。心中カレ。斥敢テ一言セス。沉默ス。則チ土木司ヲ喚ヒ。急ニ命シテ一殿ヲ造ラシム。其制城ノ如シ。堅壁アリ。深壕アリ。大門アリ。美麗ナル房室アリ。久シカラス。土木成功ヲ告ク。則チ僅カニ侍婢乳母及ヒ從者數人ヲ伴テ之ニ移リ住ス。一二男ノ外絶テ眼前ニ至ル。勿ラシメテ其生ヲ送レリ。

要

御臺ノ乳母ノ説ク所此ノ如ク効ナレト。虽將軍ノ乳母亦此事ヲ建言シ。將軍ヲシテ其妃ニ伉儷ナラシメン。トヲ求ム。之カ為ニ日本全國ヨリ最

モ國色アル女ヲ招キ集メ。時々欺テ之ヲ將軍ニ示ス。衆女中偶一女ニ親シム。姪スル。トアリ。鎧匠ノ女ナリ。將軍賤女ノ姪スル所ナルヲ以テ。之ヲ諸侯ニモ侍臣ニモ侍婢ニモ秘シ。竊カニ其女ニ告テ曰ク。男ヲ攀ケハ之ヲ殺スヘシ。賤女ノ懷ニ出ル者。日本ヲ領セシムルニ足ラサレハナリト。女其教ニ隨ヘ。敢テ之ヲ他ニ告ケス。蓋シ子ヲ殺ス者ハ重刑ニ處セラレヲ恐レハナリ。此ノ如クナルヲ以テクワネヲ充モ。近キ血縁ナリトシテ。東照宮様ノ職ヲ継カシメタルナリ。

日本將軍代替ハクワネノ時。則チ一六百五十年。和蘭使節アリシウス。及ヒブルトホルスト告別シテ。時ニ長崎ニ帰ラントシ。千六百五十年四月二十七日京都ニ着セリ。逗留スル一三日。羊旅舎主人ノ案内ニ依リ。市中ノ諸建築ヲ縦覽セリ。其記事ハ前ニ詳録セリ。轎ニテ荷ハレ男子小見及ヒ婦人群集中ヲ通過セリ。蓋シ此ノ如ク群集スルハ。都人好奇ノ念ニ出テ。外邦人ヲ觀ントスルニ出ル所ナリ。

婦女ハ既婚ノ者モ。未婚ノ者モ。頭髮ヲ飾ル一

極テ精密ナリ。日々銚水ヲ塗ル。光澤アル一鏡ノ如シ。後ニ鬘アリテ肩ニ垂ル。鬘毛ハ前額ニ沿テ。毛髮黒色ニメギツト。黒色美麗ナル物ノ如シ。其頭ノ大ナル一ハ他國人ニ勝ル所ナリ。男子亦然リ。又婦人ハ長キ上着ヲ服ス。踝ノ稍上ニ垂ル。上着ニハ潤キ袖アリ。絹ノ潤キ袖縁アリ。或ハ格子状ノ織物ヨリ成ル。腹ニ潤キ帯ヲ纏テ。刺縫アリテ散満ス。織物ハ男子ニ異ナル一ナシ。婦人他行スルニハ必ラス扇ヲ持テ。手ニ長キ柄ヲ握ル。アリシウス。及ヒブルトホルスト而使。帰路見ル

所ノ寺院中ノ最ナル者ハ。大佛殿アリ。壯大華美
ナリ。第一門ノ双方ニ悪魔ノ二大像立ツ。手ニ懷
劍ヲ持チ。傍ニ銃ヲ置ク。一ハ穏柔。一ハ悍猛ナリ。
共ニ警護スルノ状ナリ。門ヲ入レハ廣濶四角ナ
ル所アリ。周圍廊下アリ。アルドイン石礎上ニ柱
ヲ立ツ。柱ノ上端ニ透明ナル燈籠ヲ掛ク。第二門
ノ前ニ二個偉大ノ獅子アリ。石造ナリ。其間ニ石
道アリ。堂ニ入ル。堂ニ入レハ則チ驚クヘキ大像
アリ。裁縫匠ノ態ノ如ク。跣足ス。然レモ其高キ
堂ノ天井ニ達ス。日本人ノ説ク所ニテハ木造ナ
リ。周圍ニ漆灰ヲ塗リ。之ニ銅ヲ被セ。更ニ厚ク鍍
金セルナリ。頭髮ハ黒色ニシテ縮スルヲモトル
式ノ如シ。大佛ノ大サハ手ヲ以テ類推スヘシ。其
長サ人長ノ如シ。但シ一身ニ比例スレハ稍小ナ
リ。此像ハ女體ナリ。周身金光ヲ放ツ。而シテ此大佛
ノ光線中ニ各種形状ノ諸佛像ヲ現ス。尚堂ノ兩
側ニ許多ノ像アリ。是死後佛ナリトシテ奉スル
所ノ木造ナリ。頭ノ周縁ニ光線アリ。猶サシテ
ノ画像ヲ見ルカ如シ。皆金ヲ鍍スルナリ。
使節ヲリシウス。及ヒブルノクホルスト共ニ轎

ニテ進ムニ。堂内マテ日本人ニ荷カル。前後左右
群ヲ為ス。東印土商會ノ奴僕アリ。貴賤ノ日本男
子及ヒ婦女アリ。大佛堂ニ侵入シ。荷蘭使節ヲ見
ント欲スルナリ。二人ノ喇叭手アリ。入口ニ立テ
徐々之ヲ吹ク。此色ヲ聞テ多人群集ス。使節ツリ
シウス。及ヒブルクホルストハ。此像ノ巨大ナ
ルニ驚ク。其座臺ハ殿ノ平地ヨリハ稍高シ。臺ノ
上縁ニ多数ノ燈ヲ點ス。詣人は至テ拝祈ス。或
ハ地上ニ平伏スルアリ。或ハ立テ頭ヲ低ルアリ。
大佛殿ノ外警クヘキハ牛寺ナリ。此像ハ純金製

ナリ。背上ニ大班アリ。頭ニ金環ヲ纏フ。多ク寶石
ヲ竊ス。角ヲ以テ一卵ニ抵觸ス。前脚ヲ上ケ。後脚
ハ土ト石トニテ造レル臺上ニアリ。此卵及ヒ石
地上ニ多水ヲ貯フ。岩石ニテ囲廻ス。而シテ長四角
ノ臺上ニアリ。臺脚ニハ湍面日本字ヲ書ス。
坊主日本語ニテ此牛ノ縁起ヲ述フ。奇怪ノ説ナ
リ。曰ク造化主世界ヲ一大卵中ニ包ム。其殼ハ草
鑛ニ成ル。世界ハ此卵内ノ水上ニ浮泳ス。後人ア
リ。深海ヨリ竄透スル光ニ由テ上リ地ニ達ス。地
ハ土ト石トノ集成スル所ナリ。卵ハ固定シテ動

カス。牛アリ之ヲ見テ劇シク鑿鼓ヲ衝ク。其鼓分
裂シテ以來世界出現セリ。然レ此牛ハ劇シク衝
突スル為ニ喘シ。其氣息ヲ瓢箪ノ内ニ送ル。此瓢
変シテ人トナル。此瓢ヲ坊主ハホウト称ス。而シテ
人ノ始祖ヲボウラングト称ス。瓢ニ出ルヲ以テ
ナリ。

カスバルヒレヲ曰ク。魔アリ曾テ日本人ニ憑テ
曰ク。我ハ牛ノ王ナリ。廟堂ヲ造リ。牛像ヲ安置シ。
神事スルニ至テサル間ハ。苦責ヲ免カルヲナシ
ト。是日本某候國ニ於テ牛ヲ殺ス者ヲ嚴刑ニ處
スル所以ナリ。

又大ニ驚クヘキハ。不朽ノ神聖ヲ。腐朽スヘキ人
類。鳥類。四足獸。及ヒ葡萄獸ノ像ト同一般ナリト
看做シヘリ。テ宗ニ於テハ。四足獸中モ牛ヲ
尊崇スルナリ。故ニ印土人ハ数千人大モゴルニ
属スル山國ナカルキユトニ群集スルハ。マツタ
ト称スル牛ニ犠牲ヲ献スル為ナリ。立派ナル廟
堂中ニ立派ナル臺ニ裝飾ス。廟堂ノ床及ヒ天井
ハ。厚キ金板ニ成ル。密ニ之ヲ貼ス。臺ニハ寶珠。及
ヒ金剛石ヲ敷ス。其犠牲ハ尤モ驚クニ堪タリ。何

羅瑪人毒悔人牙
大像

トナレハ印土人自ラ舌ノ一片ヲ截リ之ヲマツ
タノ前ニテ焼クアリ
羅瑪人及希臘人亦牛ノ大像ヲ造ル。羅瑪ノアヘ
ンチニユス山上ニ一寺アリ。ジアナニ供スルナ
リ。牛角ヲ充ツ。アテネン宗ヨリアルキハ宗ニ轉
帰スル者ニハ。牛ヲ畜フトヲ命ス。大ナル銅製牛
ニ神事スルナリ。テラシール及ヒ埃及人ハ。婚儀
ヲ誓フニ牛角ヨリ造ル酒ヲ捧ク。舊羅瑪人ハ。久
シク金銀貨幣ヲ通用スルヲナク。唯牛皮ヲ以テ
之ニ代ヘタリ。又一規則ヲ定ム。犯罪ノ者ニ課ス

牛人誤ラス

ルニ三十牛。二羊ヲ命スルヲ最重ノ贖金トス。一
牛毎ニ四十ストイフルニ丁ルトス。
羅典記者牛ノ人語ヲ為スヲ言フ。丁常ナリ。曾テ
シ、リ、ニ一牛アリ。羅瑪ノ將軍マルセルリユ
スノラノ陣營ヲ襲ヒ。而メアンニバル大勝ヲ得
タル。片ニアンニバルマルセルリユスニ向テ逃
ルト。又他ノ一牛。プリヘルニユトニ於テ。此語ヲ
為セリ。此ノ如キ語ハ。羅瑪領下ノ國ニ歸シタル
ナリ。スンビオハ敵對スル西班牙人ヲ押シ挫ク
片ノ如ク。ホルミ。ニ一牛ヲ呼フ。羅瑪人ヨ防拒

羅瑪人ハ白牛
埃及人ハ赤牛
ヲ奉ス
五の

セヨト。アンチオキユス勇ヲ奮テ来ル。片ニカミ
バニーンニ於テ。他牛曰ク。羅瑪人サルジニーン
ヲ押領スト。他時ニ於テ各種ノ牛語アリ。不幸ノ
預言ナリ。故ニフリユンニ牛語ヲ聞ク。アリ
羅瑪將軍ゲネウスオクタヒウス。幼女王アンチ
カキユスノ後見ノ為ニ刎首セラル。又一牛ア
リ。羅瑪人ニユマンチアノ屬部大敗ヲ受クル。片
更ニ一牛アリ。キムベルス銳兵ヲ以太里ニ送ル
片ナリ。此ノ如キ説話ノ為ニ。直今ニ露天ニ集議
スルナリ。此時牛ハ馬ヲ前行セシメ。シニユアサ

ニ入ル。佛朗西ニ於テボスチユニウスノ敗軍ヲ
示ス。此時一牛アリ。羅瑪ニテ階ヲ上リ。高キ天井
ヨリ下ニ降り示シテ曰ク。羅瑪人アンニバルノ
為ニタラシメニユス湖畔ニテ大ニ敗ラルヘシ
ト。此時牛ハエシユム火焰中ニロヲ入ル。
又羅瑪僧ハ。五歳ノ白牛ヲカナニアーンセ。或ハ
ハリスレセ野ヨリ執テ。毎月中日ニユビートル
ニ捧ク。然レモ埃及人ハ。赤牛ヲテ「ボレ」ニ捧ク。
而モビタゴラスハ。牛ヲ殺スヲ禁ス。蓋シ人ノ魂
魄ハ獸体ニ入り。而モ灰白牛ハ。九歌神ニ奉事ス

獸類ニハ牛
 鳥類ニハカラス
 人類ニハゴキ
 昆虫ニハクマ
 魚類ニハサメ
 草類ニハクサ
 木類ニハキ
 石類ニハイソ
 土類ニハチ

ル者ナレハナリ。希臘ノ執政ソロソハ牛ヲ牲ト
 ナレ。或ハ之ヲ殺スヲ嚴禁セリ。是舊希臘人ノ説
 ヲ守ルナリ。人ヲ殺スノ罪ハ牛ヲ殺スノ罪ヨリ
 ハ輕シ。故ニブロンテウスハ始テ牛ヲ刺シ殺シ
 タルヲ以テ。尤モ難義ナル刑ニ罹レリ。希臘詩人
 ホメリユス歌テ曰ク。太陽ハユリリスセスノ暴
 行ヲ大ニ怒レリ。是其尊敬セサル牛肉ヲ食シタ
 レハナリ。埃及ノ一街キユスセアニ往時ヘニユ
 スアリ。牛角ヲ以テ神事スル所ナリ。コリエメル
 ヲ曰ク。舊羅甸人ノ牛ヲ殺ス者ハ必ラス殺サル

コルマシデル。マラバル。カリキエテシ。ギエサラ
 ツテ。海濱ニテモ。又他ノ印土諸地ニ於テモ。牛ニ
 奉事スルヲハ。アブラハム。ロゲリウス。ハブラミ
 ネバトマナバ。ノロヨリ開戸ヲ入り。隱伏シタル
 ヘーデンドムニマテ。糞ルト称セリ。バトマナバ
 曰ク。其語左。諸獸中ノ牛。諸鳥中ノガル。ロウタ鳥
 是赤ス。ベルウエル。諸木中ノラフシトウ。人類ニ
 於テハ。ブラミネスノ末葉ハ。神ノ尤モ愛スル所
 ナリ。バトマナバ又曰ク。コルマシテルノ住人四
 種ニ分ル。則チブラミネルス。セツトレアス。是ヨ
 王ヨ

魂轉後シテ
最後ニキスル

ヲ撰ウインシアス。アコバミチス及
アリノ別アウエ及ツウ
ドラス是ナリセツトレス及ヒ
フウドラスハ魚
及ヒ肉ヲ食スレ氏ブラミネス
及ヒウインシア
スハ曾テ生活シタル者ヲ食用スル
ナシ但シ
セツトラスモソウドラスモ牛肉ヲ食スル
ナシ是ヘダムニ記スル禁令ヲ守ルナリ
之ヲヘ
令書ト
名ク

此四種ノ末葉魂魄他体ニ轉移シ而
ノ最後ニ牛
ニ入ル故ニ牛ヲモ貴シトス其理由ヲ
説ク左
ノ如シ
エスワルド
ハライスト
ノウト共ニ開祖

ノ神ナリ妃アリバルハチト名ク五子ヲ産ム則

チヒノダネスワルドヒールレバツドラヘイレ

フ人類ノ主長ナリ死後コマラスワミ及ヒナン

ジナリ又バスト及バ此ナンジハ牛ナリワハナ

ハ荷者ト云フ之ニテエスワルド送ラル

ロゲリウス曰ク死牛ヲ美ナル櫃ニ納メ貴人ノ

如クス且ツ牛ニ美衣ヲ被セ樂器ヲ吹き香料ヲ

焚ク舊埃及人ハ牛死スレハ大喪ニ居ル女王ブ

トロマーウスデウエーセノ時ニ丁テ一埃及人

貯畜ノ財ヲ傾テ死牛ノ祭事ニ供セリ更ニ王ニ

東方の牛神
事スル埃及人
傲ル

請テ四萬^三ユカー^一テン^二ヲ貸リ。華奢ヲ極テ埋葬
セリ。

学士ユリウススカリゲル曰ク。東方人民ノ牛ニ
神事スルハ埃及人ヨリ傲^フ所ナリ。埃及人往時
ハ牛ヲイシスト称ス。故ニ當時印土人オト^ト称
ス。盖シイシスノ轉訛ナリ。タムバラ^ンハ之ヲ神
トスルナリ。ユリウスマテルニユス。コンスタン
ティンデゴロ^一テ帝ノ時ニ存生ス。大ニ之ヲ尊
信ス。アピス^スハ黒牛ニテ白首濃毛ナリ。則チパト
リアリユス人ヨセ^ビノ肖像ナリ。又リユシ^リユ

又僧家歴史ニ。某氏ハアピスノ像ヲ以テヨセ^プ
ヲ尊^フ為^ニス。是埃及人ノ饑餓スルニ方テ穀物
ヲ共ヘテ救助シタルノ功ヲ表スルナリ。ヨセ^プ
ノ名ヲ変シテアピスト^ト為^ス。神ニメ人ニアラス
トノ意ナリ。アウギユスチニユス。則チスク^リフ
チユールノ驚事ノ著者ナリ。曰ク埃及人ハヨセ
プノ墓側ニ牛ヲ置ク。盖シ牛ハ農業ニハ緊要ナ
ルヲ以テヨセ^プノ徳ニ附會スルナリ。曾テバロ
ア王ノ夢ニ七肥牛アリ。ニール河ヨリ上リ来ル
而ノ次テ七瘦牛アリ。来テ前牛ニ會ス。盖シ埃及

ニテハニール河水ノ高低ハ豊凶ニ関係シ。河水
陸地ニ上ルノ度ニ應シテ。預メ之ヲトスヘシ。ア
リニウスノ語ニ曰ク。埃及人ハニール河水地上
十八尺ナレハ凶作ナリトシ。十九尺羊ナルモ尚
饑餓ヲ免カレストシ。二十尺ニ至レハ安全ナリ
トシ。二十四尺ニ至レハ豊作ナリトス。ヨセフハ
帝ニ王夢ニ入ルノミナラス。更ニ忠諭シテ七年
ノ豊収ニ於テ百物ヲ貯蓄シ。徒消缺乏ニ至ル
勿ラシム。是ニ於テ穀物ノ保護ヲ勉メ。収獲ノ五
分ハ王及ヒ諸官吏ニ配輸シ。倉庫ヲ造テ之ヲ貯

牛穀ノ受領者
リシ

藏ス。又埃及ノ豊凶ヲ想像スルニハ。牛ノ肥瘦ヲ
以テスルヨリ確切ナルハナシ。又羅馬人ハ食物
守護者リユシウスミニユシウスヲ貴ビ。鍍金牛
ヲ三重門外ニ立テタリ。此人廉價ナル穀物ヲ人
民ニ分配シタレハナリ。
年ノ豊凶ニ應シテ。麵包ノ價貴賤アリ。希臘記者
ジオドリユスノ説ノ如ク。牛ハ穀物ノ發明者ト
云フヘシ。土中ニ種子ヲ得。農夫一般ノ用ニ供ス。
故ニ羅馬ノ大学士テレンテウスハルロハ。牛ヲ
稱シテ曰ク。農業ニ於テ人ニ伴行シ。穀物ノ奴隸

ナリト。古人ハ人アリ牛ヲ殺セハ。必ラス其人ヲ
殺シ。其手ヲ離断セリ。アリアニユス附言シテ曰
ク。此法則ハアテニール人ノ固守スル所ナリ。牛
ヲ鋤或ハ車ノ為ニ殺スト勿レ。牛ハ是一農夫ナ
リ。而メ農事ニ於テハ人ノ伴侶ナリト。
然レトバヲオノヨセブノ才識アル為ニ大ニ之
ヲ尊崇スルハ驚クヘシ。此人ハ埃及ニテハ王ノ
下ニ於テ最上ノ威權アル人ナリ。指ニ環ヲ装ス。
是帝ニ尊敬スルノ徴ノミニアラス。更ニ地理誌
ニ調印スル為ナリ。ヨセブノ名ヲ変シテサベン

ナトバネクトス。之ヲオングリウス記シテ。秘事
ヲ發明シタル一人ノ義トス。然レトヒヒロニミ
エス曰ク。埃及語ニテハ世界ヲ安保スル者ノ義
トス。此人饑饉ノ厄ヲ免カレシメタレハナリ。又
王ヨリアスナトヲ其妻トシテ賜フ。オンノ支揮
官ヨセンノ女ナリ。ヨセブハ此ノ如ク生時ニ於
テ大ニ名譽ヲ得タリ。埃及人ニハ今尚此習慣ア
リテ。人民ノ為ニ功業アリタル王公ハ。皆肖像ヲ
造リテ。之ヲ後人ニ傳フ。然ルニヨセブノ功業ヲ
現出スルニ適スルハ。牛ニ若クハナシトス。抑モ

此名譽ハ其始唯人民ノミニアリテ神トスルヲ許サレサリシニ僧徒牛ヲ飼ヒ之ヲ人民ニ示シ以テ七年間ノ饑饉ニ方テ仁惠ヲ施シタルヨセブノ記念ト為サシム後年月ヲ経ルニ隨テ人民ノ尊敬愈厚ク終ニ変シテ神事スルニ至レルナリ又希臘ニテハ偉効アリタル勇将ノ墓碑ヲ高大ニシ且像ヲ刻シ終ニ之ヲ拜祈スルニ至レリ埃及人死シタル王公ノ曾テ人民ヲ御スルニ宜シキニ適シタル者ハ之ヲ尊奉シテ神事スルニ慣ルヲ以テ漸ク進テヨセブニ及ビタルハ驚クヘキナリヨセブ生時ニ在テハサベンナトハネシト称セラル蓋シ世界ヲ保持スル人トノ意ナリ後人ヨセブ救助ノ徳ヲ欽慕シ之ヲ尊崇スルノ極彼此ノ事業ノ外更ニ醫術ノ開祖ナリトスルニ至レリキユインチユスキユルチウスハガリステンネスニ就テシリアノ追従人クレオソ、歴山王ヲ神トセントスルノ説ヲ排撃シ曰ク神トスルニハ功業ノ永久ナルヲ期ス後人永世其徳ヲ感戴スルニ非サレハ能ハス妄ニ神ト称セントスルモ他人必ラスシモ之ヲ感戴セサ

ルナリ。ヘルキユレス。及ヒバロキユス。ノ仁惠アルカ如キモ。一時ノ名アルノミニテ久シカラス。ノ消滅スルニ至レリ。ヨセブハ埃及ノ貴族及ヒ貴僧親族ニモ。又果ノ許多ノ朋友ニモ超拔ス。故ニ埃及人ノ習慣ニテ。牛則チアビスノ例ニ倣テ。首府メムピスニ於テ。神事ス。メトビスハヘリオボリスニ適セス。茲ニハプラタリユスニ據レハ。黒牛ムネウイスニ神事スル所ナリ。

ウスハ。埃及語ノアプ訛轉シテアプトナリタルニ出ルトス。蓋シ父ノ弔ナリ。以テヨセブヲ称スルナリ。ヤバラオハ之ヲアブレスト称ス。ラビビサロモンヤルシハ。之ヲ父王ト訳ス。又ヒロロニミユスハ。ラブジユダ。及ヒヨナタンノ説ヲ助テ。アブレスハ。穏柔ナル父トノ意ナリトセリ。抑モヨセブノ仁愛ノ徳アリテ。埃及人ノ饑餓ヲ救ヒタルヲ感賞スルナリ。又モセスハ。第十二世イスラエルスヲヨセブノ家系ニ出タリトス。ヨセブノ後ニ家ニ分ル。エブライム。及ヒマナツセ。是ナ

埃及ニテ牛ニ神事スルハ其
産地ニ於テスルナリ又他ノヘ
イデソ宗及ヒ遠
隔ノ日本ニ及フハ時月ヲ經ルニ
隨テ町ヨリ町
ニ傳ヘ國ヨリ國ニ搬シタルナリ
抑モ卵ハ坊主
ノ説ニテハ此内ニ世界ヲ包藏ス
牛ハ鑛屬穀ヲ
破ルノ前ニ斃ル東方人民ハ
ヘイランド降誕前
ニ驚クヘキ妄想ヲ為ス故ニ
日本人ノ説ハ甚タ

リ以テ初生ノ牛ニ比ス埃及ニテハヨセブラ画
クニフランシスキユスウニウスノ説ニ據ルナ
リ
此等ノ説ニ據レハ埃及ニテ牛ニ神事スルハ其
産地ニ於テスルナリ又他ノヘイデソ宗及ヒ遠
隔ノ日本ニ及フハ時月ヲ經ルニ隨テ町ヨリ町
ニ傳ヘ國ヨリ國ニ搬シタルナリ抑モ卵ハ坊主
ノ説ニテハ此内ニ世界ヲ包藏ス牛ハ鑛屬穀ヲ
破ルノ前ニ斃ル東方人民ハヘイランド降誕前
ニ驚クヘキ妄想ヲ為ス故ニ日本人ノ説ハ甚タ
旧キ者ナリトス何トナレハアソナセスノ學徒
有名ナル幻術者ソロアステルハ波斯人及ヒメ
ソデソノ内ニ殆ンド二千年ニ浮ヒ居レリ此ニ
物ハ萬物ノ元始ナリトオロマスデスハ善事ニ
シテ清淨ナル光明ヨリ生シアリマニウスハ惡
事ニシテ暗黒ヨリ出ツル所ナリオトマスデス
ハ星及ヒ善神ヲ爲シ而シテ互ニ一卵中ニアリ然
レモアリマニウスモ魔ト為リ卵ヲ破レリ是ヨリ
アリマニウストオロマスデスノ間相敵視スル
ノミナラス終ニ善惡混合スルニ至レリ最モ旧

キヘーデン人ハ。バリーニセ記者サンキエニアト
シノ説ニテ明ラカナルカ如ク。世界ヲ卵ノ如ク
想像セリ。故ニ百足街ノ住人ハ。埃及神テベラ世
界ノ開祖トナシ。之ヲ卵ヲロヨリ吐出スル一個
ノ人体ニ摸セリ。

又京都ニハ牛寺ノ外ニ立派ナル寺アリ。萬物ノ
開祖ニ供ス。其像大ニ驚クヘシ。寺ノ中道ニ大池
ニ水ヲ盈ツ。周囲壁ニテ塗。授ス。平地上七尺ナリ。
中間ニ怖ルヘキ大亀アリ。其首及ヒ四足水面ニ
出ツ。亀甲ニ一大樹幹アリ。上端ニ怪像坐ス。体下

二十ニノ蒲團アリ。邊縁圓ナリ。樹幹ノ周圍ニ挺
出ス。像ハ日本風ニ脚ヲ折テ坐ス。頭上ニ金冠ヲ
戴ク。頭及ヒ開キタル胸ハ深黒ナリ。毛ハ。縷縮シ
テモールル人ニ同シ。冠ハ上端尖ル。真珠ヲ盈ルノ
薔薇剪線花中ヨリ一鍼突出ス。眼白ハ黒皮ナル
ヲ以テ殊ニ光輝アリ。頭圍ニ二重ノ真珠索ヲ掛
ク。之ニハ貴價ナル金剛石ノ飾リ玉アリ。衣ハ潤
ク。開キ。胸ト腹ヲ露呈ス。腹ニ一衣アリ。腰上ニ帶
アリテ之ヲ縛ス。胸ニ真珠多キ索ヲ纏フ。左臂下
ニ金ノ袈裟ノ如キ者ヲ掛ケ。節ニ絡フ。下方ニハ

第一アリテ右側ニ及フ。衣ノ縁縫ハ金剛石ヲ装
ス。横ニハ縫帛ヲ滿ツ。裏状ニノ腹ヲ過キ兩膝ニ
掛ル。此像四臂アリ。一右臂ハ斜ニ上拳シ。前指ニ
一ノ大ナル**花**ヲ執ル。此臂ノ曲節ヨリ第二臂ヲ
生ス。手ヲ空握ス。右肩ノ稍下ニ右手ヲ拳ケ。長キ
鬘ヲ持ツ。之ヨリ常ニ水ヲ出ス。他ノ左手獨鈷ヲ
持ツ。其全体黒シ。是日本人ノ慶賀ヲ表スルノ色
ナリ。

此佛像ノ坐スル樹幹ハ。鑄鑛ニ成ル。此内ニ萬物
ノ原素及ヒ種子藏ス。以テ萬物ヲ製造スルナリ。

是固ヨリ坊主ノ妄説アリ。此樹幹ノ中部ニ一大
蛇アリテニ匝ス。佛ノ右側ニ二魔アリ。蛇ノ頭及
ヒ腹ヲ固握ス。其他部ハ左方ニアリ。左側ニ二王
及ヒ日本一學士アリ。蛇ノ尾ニ至ルマテヲ固握
ス。蓋シ日本人ハ蛇及ヒ魔ヲ尊敬シテ。不幸ヲ避
ンテヲ求ムルナリ。此ノ如クスレハ害ヲ蒙ムル
トナシトス。

ヨヤンネスベトリユスマフヒラス証言ス。印土
人ハ蒸氣ニテ入ヲ殺スノ蛇ヲ養フ。ポルペーリ
ユスト稱スル蛇ハ。白首紫身ニノ齒ナシ。然レモ

其唾液ニハ大毒アリ。觸ル所ノ物ニ尾ヲ掛ケ身ヲ倚ス。頭下ニニ袋アリ。一ハ毒唾ヲ充ツ。一ハ黒膿ヲ貯フ。是死体ヨリ徐々ニ滲漏スルナリ。最初ノ毒唾ハ人ニ觸レハ忽チ之ヲ殺ス。其猛劇ナルヲ驚クヘシ。則チ四肢忽チ拘急シ。眼ヲ旋回シ。腦ハ鼻孔ヨリ流泄ス。黒膿ニ觸レハ二年ノ後始テ死ス。

又某ノ蛇ハ其毒勢更ニ甚タシ。一二時前ニ蛇ノ過キタル道ヲ行ク者立ナカテ死スルニ至ル。ポルポスト称スル蛇ハ口ニテ咬ミ尾ニ刺ス。此ノ如キ音ヲ発スルヲ以テ此名アルナリ。木ニ攀チ尾ヲ口ニ啣ム。行人ヲ見テ之ヲ襲フ。其傷肉ハ三日内ニ腐敗ス。此ノ如ク非常ノ大害ヲ為ス。所以ハ之ニ觸ル者猶大醉シテ昏迷スルニ異ナラス。忽チ死ニ至ルナリ。又小蛇アリ。雁翮ヨリ大ナラス。是睡人上ニ落チ。如何様ニ之ヲ引クモ離レス。創傷ヨリ侵入シ。人ヲ喰フ。久シク。全身ヲ蝕スルニ至ル。

日本人ハ印土人ニ倣テ蛇ヲ尊奉シ。唯之ヲ害セサラン。フヲ謹ミ勉ム。ヘーデンノ降誕前ニ埃及

人ハ蝮蛇ヲ尊ヒ。舊記者マキシニユスナリウス
ノ説ニ據ル。印土人ハ蛇ヲ敬ス。但シ舊日本人ノ初生國ナル
支那ヨリ此ノ如キ信仰ヲ倣フタルナリ。又支那
へハ其近隣ナル韃靼ヨリ傳フル所ナリ。故ニ帝
ニ印土人ノミナラス更ニ全北部ノ人此毒物ニ
奉事スルハ。數百年來ノ事ナリ。ユリウススカリ
ゲル曰ク。王國カリキエツトニテハ豚ニ神事ス
ルト大頭ノ蛇ニ異ナラス。又アレキサンデルギユアギニユス証言スレイ
フランデルスハ蝮蛇及ヒ蛇ニ神事ス。故ニ大ニ

之ヲ尊崇シ。貴賤トナク各室内ニ蛇ヲ養ヒ。之ヲ
浴セシメ。乳汁及ヒ鷄ヲ供ス。若シ蛇損傷スルト
アレハ。其家零落スルト近キニアリトス。若シ此
蛇ヲ粗暴ニ處置スル者アレハ。其人ヲ久シク罰
スルナリ。又エラスミユスステルヲノ説ニ拠レハ。普魯社
人ハ數百年前ニハ公然トメ異佛ヲ信スルトナ
シ。然ルニ後ニ蛇ヲ信スルニ至レリ。此ノ如キ迷
誤ハサモキテシニ出ル所ナリ。此未開人疾ニ罹
ルトアレハ。蛇ヲ饗應セス。或ハ飽足セシメサル

ニ原スト思考ス。シキスミエントバロンヘルデ
 ンステイニニ於テ曰ク。余莫斯古ヨリトルキ至
 レリ。此地ニ多年住居シタル者ノ語ニ曰ク。頃
 余地僕ヨリ一籠ヲ求ナリ。此人許多ノ証ヲ以テ
 キリステンドムニ從事スルナリ。故ニ神事スル
 ノ地ヲ殺セリ。一日蜂ヲ求ムル為ニ野行シタル
 ニ籠内ニ人アリ口裂テ兩耳ニ達ス。且ツ非常ニ
 醜容トナレリ。人ニ告テ曰ク。余神蛇ヲ害セリ。故
 ニ今此刑ニ罹ル。再ヒ信心スルニアラサレバ更
 ニ十倍ノ苦責ヲ蒙ムルベシト。

日本人及ヒ他國人数百年来今日ニ至ルマテ蛇
 ヲ寺ニ納ムルハエノハノ地ノ属ニ亡ホサレタ
 ルヲ以テナリ。誰カ詩中証明スル所ヲ非難セン
 ヤ。自ラ深黒中ニ在テ鮮光ヲ放チタルニ多年ヲ
 経ルニ隨テ魔ノ為ニ人心欺カレ。愈ベリベルセ
 日ヲ低下セシム。

希臘及ヒ羅甸詩人更ニ裝飾シテ曰ク。ヘスペリ
 テスノ王宮ニ野ヘタル不眠ノ蛇ヲヘルキエレ
 ス。殺害シテ其金果ヲ其亡父エウレステウス
 ニ復セリ。其首ヲヘイランド踏ム。是エテンニ於

テノ蛇ノ影ニアラスヤ。是像ハ舊希臘ノ信心ヨ
 リ出ルニアラスヤ。希臘記者ヘシキウスクレメ
 ンス及ヒブリユタルキエスノ証スル所ニ據レ
 ハ希臘人ハ祭日ニ泣ク。エノハエフハト而ノ同
 時ニ蛇ヲ指示ス。而ノ大畧三百年前ニ現ハレタ
 ルオビーンテンハ法教ヲ背キ蛇ニ就テ為シタル
 事業ハ僧家歴史ニ明ラカナリ。則チ論テ曰クキ
 リスチユスハ蛇ナリ。エノハヲ欺ケリ。更ニ蛇体
 ヲ現シテ處女摩理ニ入レリ。彼絶テ晚餐ヲ食セ
 ス。魔語ヲ以テ蛇ヲ洞ヨリ呼ビ出シ。或ハ筒ヨリ
 出ス。サクラタンテールハ。未タ試ミサルカ。或ハ
 少しモ蛇ニ觸レサル間ハ。麵包ヲ不安全ナリト
 考フルナリ。

再ヒ上ニ記スル造物ノ神ノ坐シタル樹幹ヲニ
 匝セル日本蛇ヲ説クヘシ。此蛇ハ首ヲ神ノ右側
 ニ出ス。是ニハ怖ルヘキニ魔アリ立ツ。脚ヲ開テ
 壁ノ内側ニ及フ。壁ハ水ヲ防ク。其中間ニ上ニ記
 スル亀アリ。樹幹ヲ荷フ。此樹幹上端ニ造物主坐
 ス。前ノ魔ニハ多毛ノニ足アリ。一長尾アリ。両臂
 間ニ袈裟アリ。前ヨリ背ニ掛ル。頭ニ貴價ナル真

大首魔ト造物神
ト云フ事ニモ
ト云フ事ニモ

珠索ヲ掛ク。両手ニテ蛇ノ首ノ下ヲ固握ス。頭上
ニ二個ノ大ナル驢耳歌フ。他ハ犬首ニシテ長口ナ
リ。往時埃及人ノ信用スル有名ナルアニユビス
モ犬首ナリイシス。アニユビスニ仕テ獵犬ヲ使
用スル如ク見失フタル人埃及王オシユスヲ求
メ此人第ノ首ニ殺サレ。終ニシトネト共ニ分裂
セラレタルヲ見ルニ起ル。

此犬首魔ト造物神トノ間ニ第二魔アリ。是亦手
ヲ以テ地ヲ固握ス。外套ヲ被フ膝上ニテ鱗屑状
ニ切裂ス。袈裟ノ如キ者ヲ肩ニ掛ケ胸前ニテ合

ス。長キ端末ハ右臂ニ掛ル首ハ稍狹ニ似タリ。厚
キ牛耳ナリ。首ニ岐分ナル角アリ。此ニ魔ハ曾テ
全カヲ盡シテ世界ノ造物主ヲ妨ケントセリ。日
本人ハ草類及ヒ百花ヲ豊成センカ為ニ。此柔軟
ナル植物ニ禍ヲ下サバルヲ祈ルニ為ニ。供物ヲ
具フ。

此魔ニ事フルトハ支那ヨリ日本ニ傳搬シタル
ナルベシ。何トナレバ支那人ハ魔ヲ尊ビ。福ヲ招
キ。禍ヲ避ントス。魔ノ像ハ怖ルヘキ龍ノ上ニ安
ス。大ニ開キタル口ヨリ火ヲ噴キ且ツ驚クヘキ

魔ト云フ事
ト云フ事ニモ
ト云フ事ニモ

軍装ス之ニ向テ事ノ将来ノ吉凶ヲ占フ。彼二個ノ木塊ヲ持ツ。胡桃大ナリ。之ヲ羊割シテ糸ヲ通ス。之ヲ魔ノ足前ニ投スルニ。二個共ニ落ルカ。或ハ其一個他ニ衝突スルニ由テ。吉凶ヲトス。凶ナレハ魔ヲ呵ス。吉ナレハ之ヲ敬シ。犠牲ヲ献シテ慰メントス。又其闖不幸ヲ示セハ。成功ヲ期スルト言テ。其像ヲ水ニ投シ。或ハ彼此ノ一部ヲ焼ク。而ノ再ヒ歎願ス。此ノ如ク罵詈ト憐愛ト相交替シテ。終ニ兩球相合スルニ至レハ。祝言ヲ奏シテ。魔ニ謝ス。則チ之ニ美味ニ調理セル鷄鴨雁米酒

ヲ捧ケ。酒盞ヲ美味品ノ下ニ保シ。又一酒罍ヲ供フ。此各食物ノ少許。則チ豚耳ノ尖。鳥ノ爪。酒一滴ヲ像前ノ臺上ニ點シ。他ノ食物ヲ大ニ歎ヒ食スルナリ。又支那人中ニ老子ノ教則ヲ守ル僧アリ。其母八十歳ニテ産ム所ナリ。此僧ハ黃紙上ニ怖ルヘキ魔像ヲ画キ。之ヲ屋内ノ壁ニ貼シ。而シテ自ラ魔トナリタル如キ装ヲ扮シ。屋内ヲ廻走シ。以テ魔ヲ追放スルヲ期ス。抑モ魔ニ事フルハ。嘗ニ日本及ヒ支那ニ行ハルノミナラス。更ニ東西印土ニモ行ハル所ナリ。カ

魔ニ事フルハ
嘗ニ行ハル

ルキエト人曰ク。世界ノ開闢神ハ。神意ヲ安樂ニ
 セシク為。世事ヲ抛テ。魔デウミエムニ托セリ。其
 像猙猛ナリ。ブラミネス之ニ神事ス。蓋シデウミ
 エムノ妨碍ヲ避ンカ為ナリ。然レ氏此汚レヌル
 靈ニ神事スルハ。更ニ世界ニ遍布セリ。是極テ舊
 キナリ。モセスノ時代ニハ。此ノ無靈ノ魔ハ深
 ク敗亡セリ。モセス此事ヲレヒス。典經一七五、七、ニ
 記ス。曰ク人復タ挫テ魔ニ捧クレノ習ヲ脱スヘ
 シ。又デウト。典經三二、五、一七、ニ記ス。曰ク人魔ヲ學
 ハリ。神ヲ學ハス。又ヘーランド降誕前數百年ヘ
 ーデン人魔ニ事ヘリ。出血信心法ヲ以テシ。胎児
 ヲ母胎ヨリ截フ。之ヲ尊テ燒キタリ。羅甸詩人リ
 エカニユス。此ノ驚クヘキ殺害ヲ賦ス。之ヲ詠ス
 レハ。

胎児ヲ腹創ヨリ抜ク。産スルニアラス。自然ヨ
 リ出テ炎熱ナル卓上ニ置カル。

日本開闢神ノ左側ニ。二王ト一學士アリテ。前ニ
 記スル地ノ後身ヲ固握ス。神ニ近キ王ハ。三尖冠
 ヲ戴ク。後口ハ彎曲ス。其下ニ金ノ袈裟アリ。頭ニ
 二匝ノ真珠索ヲ掛ク。胸前ニ貴價ナル金剛石ノ

飾リ玉アリ。絹紐ヲ垂ル。毛氈ハ脚ノ間腹下ニテ
開ク。顔ハ少年男ナリ。神ノ右側ニ立タルニ魔ノ
方ヲ見ル。此王ハ数百年水上ニ立ツ。而シテ開闢神
ヲ妨クルノ魔ニ抗ス。
側ニ立ツ。第二王モ同意ナリ。是亦両手ニテ蛇身
ヲ固握ス。胸ニ一條ノ真珠索ヲ掛ク。其外套ハ羊
脚以上ヲ被フ。袈裟ハ背ニ在テ側ニ脱ス。四首ナ
リ。各首尖リタル髭アリ。金冠ヲ戴ク。上尖愈小ナ
リ。終ニ一尖ニ終ル。此四首ハ此王保生四千年ナ
ルノ徴ナリ。

一老學士ハ末ニ立ツ。右手ニテ蛇身ヲ固握シ。左
手ニ蛇尾ヲ絡フ。其外套膝ニ及フ。髭長クニ束ニ
分ル。面貌老男ナリ。後頭ノ上ニ右側ニ龍首アリ。
左側ニ龍尾旋回ス。前額ニ金環ヲ飾ル。
此四首佛ノ外日本人ハ数首ノ諸佛ヲ奉ス。或ハ
釈迦ニ一帽下三首ヲ具スルアリ。或ハ阿弥陀ノ
子ナル觀音ノ胸ニ七首ヲ現スルアリ。イ、ソ、イ
トダリユベル曰ク。韃靼國ネグバルニハ数種ノ
寺アリ。多頭佛ヲ安ス。或ハ無体ニメ六頭アリ。一
卓上ニ三層ニ重ヌ。下層ニ三頭。中層ニ二頭。上層

ニ一頭各頭ハ他頭ノ間ニアリ。兩側ニ長圓ノ香料箱アリ。而シテ毒盃ニ食物ヲ盛テ六頭ニ供ス。別ニ太陽アリ。半身水中ニ在テ上ニ記スル老學士ト四首王トノ間ニ立テ。水ヲ防クノ壁内ニアリ。太陽長衣ヲ服ス。其下端ハ水中ニ垂ル。左臂ニ袈裟ヲ掛ク。左手銳鍼ヲ握ル。頷ニ長髭アリ。頭ノ周圍ニ金光ヲ放ツ。右手ニ研キタル懷劍ヲ持ツ。以テ樹幹及ヒ神下ノ龜ヲ連々刺シ。龜ヲシテ轉回セシメントス。然レハ是極テ遲徐ニシテ日本人ノ説ニテハ一轉スルニ一千年ヲ要スト。

太陽爲一地ノ用

尚驚クヘキトアリ。日本人太陽ノ爲ニ堂内ニ於テ一地ヲ開クナリ。蓋シ一ニノ神能ク高壽ニ達スルトヲ得ル者アルモ。太陽ノ如キハ得サル所ナリ。古人ハヨブノ高壽ヲ説ク。七十二回轉生ス。又ラオドケス。及ヒオリム。ピオドリユス。ハヨブヲサラノ子ナリトス。サラハラギユエルノ子ニメラギユエルハエサウノ子ナリ。余カ光ヲ見得レハ。其現出スルナリ。則チ月落チ。我心隱レハ。月誘ヒ出サル。我手我口ニ吸フ。是ヨリヘーデンノ習慣起レリ。太陽ヲ始テ持スル人手ヲ吸フヲ信

心ノ微トス。其後太示指ヲ曲テ拇指ニ達スルヲ
アブビユレエウニ傲フ。拇頭ヲ口ニ刺シ之ヲ吸
フ。但シ自ラ身ヲ左ニ旋回ス。東方人ハ太陽ヲ祈
ル。モセスノ神靈ナル禁令ハ現著ナリ。汝日ヲ天
ニ向ケ。顔ヲ太陽月及ヒ星満天ノ物ニ向クルヲ
勿レ。汝宜シク之ニ服従シ。使役セラルヘシト。然
レ凡此禁令ヲイスラエリステシハ嚴守ス。殊ニ
シリール人ヨリ請クル所ナリ。シリール人ハ太
陽ヲバハルト称ス。猶ヘイル君ト云フカ如シベ
ニシリール人者ベイルサピンハンコノ説ニテハ旧記

出ツ。波斯語ニテ天ノ君ト云フカ如シ。ベシリール
アカロン街ノ住人ハ。太陽ニバイルセリバビム
ノ名ヲ帰ス。犠牲ノ主トノ意ナリ。然レ凡其後此
名変シテ。バイルセビユボト称ス。盖シ飛神ノ美
ナリ。敗軍大旱。及ヒ傳染病アル時ニ之ニ己レノ
子ヲ牲トスルヲ。ボルベリリウスノ証スルカ如
シ。アムモニイテンハ。モロココ。或ハミルコムムヲ太
陽ノ子トス。之ヲ尊敬スルニ。父自ラ其子。或ハ女
ヲ負ヒ。或ハ僧ニ負ハシメテ。二火ノ間ニ之ヲ清
淨ニストス。或ハ恐ルヘキモロココノ像ト共ニ焼

ク。七個ノ銅室ニ分ツ。其室像ト共ニ熾紅トナル
 片。献者ハラビシメオンニ倣フテ。第一室ニ花粉
 ラ投シ。第二室ニ長生鳩。第三室ニ一羊。第四室ニ
 一羔。第五室ニ犢。第六室ニ牛。第七室ニ己レノ子
 ラ投ス。此七室ニハ七惑星ヲ画クサケエルニユ
 ス。ユピーテルマルスゾンヘニユス。メルキユリ
 ヌス。及ヒマリーシナリ。故ニ太陽ハをモ美ナル供
 物ヲ請ク。是最貴神ナル所以ナリ。

エミスセンネルスハシリアアパメナニ於テ太
 陽ノ為ニ一宮ヲ建テエラガバリユスト称ス。山
 ノ神ト云フカ如シ。マクロビウス証シテ曰ク。ア
 スシリールスハ太陽アドダニ最上ノ威權ヲ帰
 シ。諸神アドラガケスヲ指揮命令スル者トセリ。
 アドダノ像ハ其光線下向ス。但シアドラガケス
 ノ像ハ其光線上向ス。甲ハ太陽ノ光線地ヲ射ル
 ニ由テ天カヲ現スルノ意ヲ表シ。乙ハ此光線ニ
 應シテ萬物下ヨリ上行スルノ意ヲ表スルナリ。
 亜刺伯人ハ屋上ノ卓上ニ日々香ヲ焚テ太陽ニ
 供ス。モアビテン。及ヒマジアニリテンノカモス。
 及ヒバールベオルニ異ナラス。ピロニミユス

亜刺伯人太陽奉事

曰クナボ街ニカモスアリ。別名アリベールペゴ
ルト称シテ之ヲ祭ル。

亜刺伯人ノ内太陽ニ奉事スルニモ有名ナル
ハ紅海ニアルバイサムブサ街ナリ。サムブサハ

亜刺伯語ニテステパニエスト云フニ同ジ。共ニ

太陽ノ事ナリ。バイサムブサトハ太陽ノ家トノ

意ナリ。波斯人ハ太陽ヲ最上ノ神ナリトス。三種

ノ祭事アリ。蓋シ戈智ノ賢明ナル。思慮ノ善良ナ

ル。所業ノ恩徳アルヲ表スルナリ。又太陽ノ三功

徳ヲ説クニ温暖光明及ヒ分時ヲ以テスルアリ。

又晝夜ヲ分ツニ三種ノ別アルヲ以テスルアリ。

則チ秋ハ晝夜平均夏ハ日長ク冬ハ日短カシア

ル。ソニール人マサゲリテシ。及ヒ波斯人ハ太陽

ニ白馬ヲ献ス。オヒジウスハ後ノ古詩ノ意ヲ解

スルニ此義ヲ以テセリ。

波斯國ニテハ白馬ヲ以テ光線ヲ放ツ者ヲ祈

念ス。迅速ナル神ニ誤テ捧クルニアラス。遅徐

ナル神ニ捧クル為ナリ。

ミトラ波斯人ハ太陽ハ波斯ニ産シタル寶石ミ

テリダキスヲ安全ニ保護ス。プリニウス及ヒイ

ジドリユスノ証スル如ク。許多ノ反射ヲ生ス。埃
及人ハ太陽ヲ貴テオシリスノ各中ニ置ク。而テ
王國埃及ヲ開基シタルカミノ子ヲ太陽ミトス
ラミアト共ニス。埃及ニテハ各街太陽ニ奉事ス
レトヘリオポリスヲ以テ最モ貴シトス。猶太陽
街ト云フカ如シ。茲ニハ牛ムネウイスノ太陽ニ
奉事スル所ナリ。但シ太陽ノ像ハペリオポリス
ヨリアシリオンニ送レリ。埃及王セネミエリス
ノ時代ニアシリホルス執權デレボレスノ使者
アビアスハ之ヲ上ニ擡クマクルビウス此太陽

ノ像ヲ画ク曰ク。是純金ナリ。鑄治セスシテ成ル。
右手ニ鞭ヲ奉テ。御者ノ杖ナリ。左手ハ電光ト穀
穂ヲ挿ム。

モルル人亦太陽ノ主神ナリトス。之ヲアサビン

ト称ス。之ニ牲ヲ献ス。其僧ノミ桂ヲ摘ムヲ得。然
レ氏先ツアサビンヲ尊敬シ。四十四牛。山羊。羊ヲ
捧クルナリ。但シ日出前。又日没後ニアラサレバ。
桂ヲ集ムルヲナシ。桂支ヲ集メテ神聖ナル鎗ニ
テ之ヲ分ケ。残余ハ商人ニ寄ス。商人價ヲ償フテ
之ヲ携へ去ル。各僧其分配ヲ受ク。分配正シキヲ

知ルヘシ。若シ桂ノ残遺アレハ。太陽之ヲ燒クナ
リ。分配宜キヲ得レハ。此事ナシ。テオブラス。今ユ
ス。プリニウス。及ヒソリニウス。証スルガ如シ。
舊希臘記者ブルクリユス。希臘ニテ太陽ノ祭事
ヲ記ス。毎月七日ニ老利兎樹及ヒ諸般ノ木材ニ
テ大柱ヲ造リ。其上ニ大ナル銅球ヲ置ク。之ヨリ
次第ニ小ナル球ヲ掛ク。此柱ノ中道ニ三百六十
五ノ剪絲花アリ。柱ノ根脚ニ黄色ノ女衣ヲ掛ク。
上端ノ球ハ日ヲ表シ。中球ハ星ナリ。剪絲花ハ一
年ノ日数ヲ表スルナリ。

一人モ太陽ヲ汚ス者ナシ。故ニ遠隔地方ノマサ
ゲノテンモ。ヘロドテユスノ証スルカ如ク。太陽
ヲ尊奉スルナリ。又舊獨逸人モ基督教ヲ奉スル
前ニハ。此天日ヲ敬スルノ習慣アリタリ。又オラ
ウスマグニユス証シテ曰ク。北方ノ極ニ住スル
人民モ。羊年ノ夜方ニ明ク。光及ヒ温再来スル所
ニ。太陽ニ神事ス。西印土人ノ太陽ニ事アルト異
ナルヲナシ。故ニ彼輩ハ彼ニ十字教ヲ宣化セシ
トシタル所。大ニ西班牙人ヲ嘲弄セリ。蓋シ毎朝
出現スルノ神徳ハ。他ニ比較スヘキ者ナシトス

ヒラサコ
太陽
イシムラハ

五箇年
神事

レバナリ。

殊ニヨセブアコスタ。白露人ニ告テ曰ク。彼ヒラ
コサ。ラ最上ノ神ナリトス。然レ氏之ニ次テ太陽
ナリ。第三ハインケルラバナリ。雷ヲ徴ス。則チ一
男ノ棒及ヒスリンゲルヲ装スルナリ。此三者ニ
事フル。ト相同シ。則チ手ヲ拳テ拍キ音ヲ発ス。強
ク吸口スルニ異ナラス。而メ各人所願ヲ述ルナ
リ。リユスコニテハ五人活兒ヲ牲トスル。トアリ。
東印土ニテハヘイランド降誕前ヨリ太陽ニ神
事スル。トテ知レリ。カテシアス曰ク。彼輩年々十

五日間旅行シ。一定所ニ於テ太陽ヲ祭ルノ禮典
ヲ行フ。三十五日冷涼ヲ惠與セン。トテ祈ル。蓋シ
燒カレサルヲ欲スルナリ。而メ彼此回復シテ之
ヲ祭ル。故ニ又ヨードベニアミンチユデレンシ
ス。ハ。トウラムス住人ニ告テ曰ク。学士ウゲラド
若シクウラハシユハ。恐ラクナルハセシト。
七日旅行ノ後。余ハトウラムニ至レリ。太陽ヲ神
トシ。王國ノ始祖ナリトス。天文家キユスノ數兒
中ノ一人ナリ。此太陽市外羊里ノ各所ニ建タル
各種ノ卓上ニ祭ラル。毎日早朝太陽ヲ訪フ。之ニ

天造地化ノ功徳

(三)

諸卓上ニ映シタル像ヲ宛行ヒ。幻術ニテ製シタル日輪ト同シカラシム。日上ルヤ輪光ヲ放チ。且ツ大響ヲ發ス。各男各女手ニ香料ヲ携ヒ同時ニ太陽ニ献ス。

又探索スヘキ要件アリ。何故ニ日本人古往今来ヘイデン人堂内ニ太陽ノ爲ニ地ヲ開クヤ尋常萬民ノ通説ニアリストテレス。シムブリキウス。テミスケウス。及ヒ他人ノ証スルカ如ク。永劫不朽ノ神聖ヲ上乎ニ置キ。以テ地球ヲ囲遠ス。故ニ其手ヲ上ニ攀クルナリ。天ニハ太陽ノ如キ功徳

ヲ見サルヲ以テ。太陽ヲ無比ノ神トスルナリ。何トナレハ其光明ニテモ。其大サノ地球ニ萬々倍ナルニ於テモ。運行ノ迅速ナルニテモ。一時間ニ千萬里ヲ進ムヘシ。廣大ナルカ徳ニテモ。温暖ヲ興ヘテ萬物ヲ化成發育シ。又其光明人間百事ニ要用ナルトニテモ。東ヨリ西ニ至ルヲ以テ日ヲ算シ。南ヨリ北ニ至リ。又北ヨリ南ニ至ルヲ以テ年ヲ算スルニモ。此等ノ諸件ヲ算スルニハ一太陽ヲ以テ尤モ精當確實ナリトス。之ヲ外ヨリ總括シテ。ヘイデン人ハ天造物ヲ以テ造化ノ地ニ

置キ尊敬スル為ニ一道ヲ開キタルナリトマス
アキユイナスルハ此信者ヲ人ニ比シテ曰ク猶殿
堂ヲ出テ唯其王ニ歸スルノ宮室ノ美ヲ賞シ外
見ヲ以テ之ヲ尊敬スルカ如シト

然レ此日本人ノ太陽ノ像ヲ想像スル所ハ舊希
臘人及ヒ羅馬人トハ自ラ異ナリ何トナレハ太
陽ノ容ヲ現スルニ少年ニメ無髭ノ顔トス抑モ
太陽ハ時限ヲ経ルモ汚カラ重ヌルモ決シテ老
衰スルトナシト故ニアテネン羅馬人又以太利
ニテハ少年始テ髭ヲ剃スレハ其毛ヲ太陽ニ呈

スルナリ日本人ハ太陽ノ像ヲ示スニ其老体ヲ
現ワスニ似タリ又太陽ノ顛覆セントスルノ龜
ハ舊時支那ヨリ傳フル所ナリ何トナレハアリ
ニウス曰クトルグハシステン角アル龜ヲ持ツ
此龜ハ自ラ其角ヲ以テ水ヲ支配ス其浮泳スル
所ノ地ヲ神聖ナリトシ尊敬ス

再ヒ使節アリシウス及ブルークホルストノ事
ヲ記ス千六百五十年四月三十日京都ヲ出ツ途
次大佛寺ニ詣ス京都内外ニ住居スル坊主類ル
夥シ此叡山上ニ九百年前ニ日本王三千八百寺

院ヲ建立セリ。其多分ハ信長ノ為ニ焼カル。京都ニ對スル此山ニ。往時七千字ノ建物アリ。各字内ニ十人十五人。或ハ二十人。或ハ更ニ多数ノ僧ヲ置ク。此内ノ一寺富有ナル。他寺ニ超拔ス。諸侯兵ヲ構フ。巨財ヲ借請ケ。凱旋ノ後之ヲ償フ。平民モ切迫時ニハ一時之ニ頼リ保持ヲ得ル。アリ。各寺ニ主長アリ。之ヲニシント称ス。誠ノ心トノ意ナリト云フ。

又坊主ハ富者ノ死ヲ埋葬スル。トヲ司トル。佛前ニ誦經スルヲ勤ム。十五日毎ニ。又三月毎ニ人民

ノ為ニ説教ス。之ニハ多時ヲ費ヤスナリ。首長ハ坊主中学識ニ長スルヲ以テ。日々衆僧ヲ集メ。各人ニ一事ヲ論シ。更ニ之ヲ演説セシム。其事ハ信心事件ニ関スルナリ。例之死ト云ヘハ。魂魄ヲ説キ得レハ。体ヨリ分ツヘシ。人アリ地獄ヨリ出現スレハ。他人ニ向テ何ヲ言フヘキヤラ思考セシム。首長各人ニ所説ヲ書記セシム。其明解シ得ル者ヲ褒シ。能ハサル者ヲ貶ス。

彼輩此教ヲ固持シ。王公ニモ己レヲ屈スル。トナシ。ソイトチユルセルリニウスリヒリウス

其教ヲ固持シ王公ニモ己レヲ屈スルナシ

ノ生傳ヲ記ス曰ク。余豊後候ノ家ニテキリス
 ンドムヲ講シ。大ニ日本佛教ヲ誹議セリ。候稍之
 ヲ解スルニ似タリ。一坊主ハシアンドノ候ノ傍
 ニ在リ。大ニ之ニ抗シ。信心スルハ候妃ノ思慮ニ
 出ル所ナリ。日本佛法ノ深奥ヲ知ラサルヲ以テ
 ナリ。決シテ信スヘキニアラズトス。議論困難ナ
 ルニ及ヘハ。則チ遁路ヲ闕テ。此ノ書ヲ見ルヘシ
 自ラ悟ル所アラント。候黙シテ之ヲ讀ム。其後ハ
 シアンドノ前以テ久シク押柄ナル容儀ヲ為シ
 人ヲシテ疑ハサラシムヘク。坊主ノ神聖ナル
 ヲ説キ述ヘリ。此ノ如キ所業ハ。佛ニハ大ニ快ト
 スル所ナリ。則チ眞實ニ傾心シ。生肉ヲ禁シ。少年
 ヲ教諭シ。死者ニ証書ヲ與ヘ。以テ天ニ於テ十倍
 ノ償金ヲ請ケシム。夜中醒起シ。世人ヲ濟度セン
 ヲ佛ニ祈ル。且ツ此諸事ノ外。日月星辰及ヒ他
 ノ天体ト共ニ順行スルヲ得ルトス。彼候ヲ欺キ
 此ノ如キ放言ヲ為シタルヲ以テ。候怒テ終ニ黙
 セヨト命セラレ。ハシアンドノ此ノ如キヲ以テ
 坊主ノ信心ヲ現ハサントスルモ。是佛ヨリ小魔
 ノ裁決スル所ナルヘキヲ以テ。黙スヘキナリト

言タルハハシアンドノ更ニ罵テ曰ク諸人ニ賤
シメ嫌ハルノ時来ルヘシ其時ニ及テ豊後ノ候
タラント欲スルモ決シテ能ハサルヘシ死後誰
カ之ヲ貴フ者アラシヤ候此大言ヲ聽カサル如
ク然レハシアンドノ其理ニ伏シ怒リ喚テ
曰ク天火候ヲ焼ク是神聖ナル佛ヲ奉スルノ僧
ヲ罵リタルハナリト

但シ坊主十二宗ノ別アリ人或ハ其数ヲ減算ス
ルアリ諸宗中尊敬少ナキハ弘法大師ヲ開祖ト
スルノ宗ナリ弘法大師ハ有名ナル地方高野山
ニ数寺ヲ建立セリ自ラ一室ニ閑居シ頭髮ヲ剃
除シ以テ世ヲ棄テ行ヲ脩ムルノ意ヲ表ス然レ
氏諸所ニ巡迴ス此地ニハ多人住居スルノ外坊
主六千人ヲ養フ若シ婦人アリ此地ニ迎接スレ
ハ之ヲ死ニ處ス但シ弘法大師ハ八百年前ニ存
生シ外見ト能辨トヲ以テ神聖ノ名ヲ釣タルナ
リ今日日本人民ノ通用スル文字ノ創意者ナリ
弘法大師高年トナルニ及テ自ラ四角ナル洞内
ニ入り人ヲシテ決シテ之ヲ伺フヲ勿ラシム之
ニ背ク者ハ重科ニ處スヘシト而メ敢テ死セス

但シ永時ノ艱苦ヲ経ルニ因テ。生命危急ニ至レ
 ハ。則チ地上ニ坐シ。地中ニ休息スルヲ。万々年。此
 時ヲ過クレハ。非常ノ博學彌勒ナル者。日本ニ未
 ルヲアルヘシ。此時共ニ現出スヘシト。其墓ノ周
 圍ニ無数ノ燈籠ヲ供ス。是日本全國有志者ヨリ
 寄贈スル所ナリ。何トナレハ。凡ソ弘法大師ヲ信
 スル者ノ想像ニ。此ノ如ク燈籠ヲ献スレハ。死後
 大師ノ導引ニ因テ幸福ヲ得ヘシトスレバナリ。
 右モ厭フヘキハ。ネウゴリ坊主ナリ。是詐言者役
 ノ小角ヲ神聖ナリトスル所ナリ。最ナル居留地
 ハ。ハトノカイナリ。則チ地獄ナリ。故ニ首長ナ
 シ。各人一致スルニ非サレハ。事ヲ決スルヲナシ。
 或ハ衆人暗中ニ相闘フヲアリ。各一方ヲ助ク。又
 ネウゴリハ。多数ノ少年ヲ養フテ。詐欺及ヒ偷盜
 ヲ為サシム。此少年中。弋氣智慮アル者ニハ。別段
 ノ教諭ヲ加フ。日本諸候ノ家系。本末。事業及ヒ政
 令ヲ悟ラシム。更ニ軍事及ヒ能辨ヲ習熟セシム。
 此ノ如ク教諭スルノ後。遠國諸候ニ遊説シ。諸候
 ノ子弟ヲ教諭シ。又去テ他地ニ赴ク。其到ル所大
 ニ衆人ノ尊敬ヲ請クルハ。諸候各家ノ記章ヲ佩

フレハナリ。且容儀ヲ整フ。富者ニ就テハ多金ヲ
要スルハ。貧者薄儀ヲ以テ遇スルヲアレハナリ。
稀ニハ金ヲ貸ス。一アリ。必ラス高利ノ約ヲ為サ
、ルヲ得ス。速カニ財囊ヲ充タニ至レハ。則チ本
寺ニ帰ルナリ。故ニ若シネウゴリ。ハトノカイチ
ヨリ限外ニ出テ。發覺スルヲアレハ。直チニ死ニ
處スルナリ。此ノ如ク日本人ネウコリヲ厭フト
。虽黨兵多数ナルガ為ニ。敢テ抗スル者ナシ。是屢
鬪争アル所以ナリ。其生徒分テ三種ト為ス。或ハ
信心ヲ為スアリ。或ハ一人毎ニ五矢ヲ納ムルア

リ。或ハ軍事ヲ講習スルアリ。マルタノ義黨ニ異
ナラス。故ニ時ニ兵ヲ出シテ。王公ニ抗スルヲア
リ。千五百六十一年三萬ノ兵ヲ出シ。京都ト堺ト
ノ間ニ陣ヲ構フ。公方ト激戦シテ大ニ之ヲ敗リ。
勝ニ乗シテ京都ニ侵入シ。市中ニ放火セリ。然レ
氏久シカラス。ノ無難ヲ恃テ不注意トナリ。不注
意ノ極勇猛ナル諸侯信長ト構兵シ。終ニ不幸ニ
メ敗滅ニ至レリ。

坊主中最モ尊敬セラルアリ。第十二ノ宗。則チ一
向宗ト称スル者ナリ。其首長ハ常ニ轡ニ荷ハル。

王公ノ榮譽ヲ請ク。一向宗徒ノ大ニ尊崇スル所
ナリ。此坊主ハ他宗ニ比スレハ。大ニ自由ヲ得タ
リ。婚嫁スルヲ得。海陸ノ諸産ヲ食スルヲ得。頗ル
多数ノ寺アリ。將軍家ノ國庫ヨリモ。又所領ノ地
方稅ヲモ收ムルナリ。他ハ尋常人民ヨリ保持セ
ラル。則チ各人自己ノ寺。及ヒ懺悔ヲ聞ク人ノ為
ニ財ヲ惜マス。坊主ノ各寺皆信者ヲ存スルヲ以
テ。信仰スル所趣ヲ異ニスルモ。絶テ異議スル者
ナシ。紳士互ニ意見ノ異ヲ爭論スルトナシ。但シ
異宗ノ者ニ向テハ。相誹謗シ。相容レス。一向宗ノ

寺院多クハ割烹舖ナリ。故ニ遊樂ニ供スルノ室
ヲ構フ。或ハ相集會シ。啻ニ飲酒酌酹スルノミナ
ラス。佛威ヲ汚スニ至ルナリ。娼妓ヲ聘シ。歌舞
ヲ演シ。娼妓ハ指ニテ坊主ノ目ヲ蓋フ。他宗ノ僧
ニハ此ノ如キ醜行ナシ。中夜某時ニ一室ニ會シ。
佛ヲ念シ。釈迦ノ遺教法華經ノ文一章ヲ唱歌シ。
各人一節ノ教訓ヲ授カリ。翌朝其辨解ヲ記シテ。
之ヲ首長ニ呈スルナリ。

行狀ノ嚴格ナルハ第十一宗ナリ。此宗ノ僧ハ婦
人ニ接セス。又凡ソ生活アル者ヲ食スルトナシ。

誓願書
ノ
上
ノ
下
ノ
上
ノ
下

若シ誓ニ背キ戒ヲ破リ首長ノ耳ニ入ルトアレ
ハ其羊身ヲ土中ニ埋メ動ク能ハサラシメ其前
ヲ通過スル者ヲシテ木製鋸ニテ頸ヲ一線引カ
シム第四日ニハ多クハ苦死スルナリ
行状嚴格ナルヲ以テ此坊主大ニ敬崇セラレ野
菜ト水ト米トノミニテ保生スルナリ王侯貴族モ
多子ナル片ハ之ヲ養フニ多財ヲ費スヘク又後
日遺産ヲ分配スルニ及テ本家ヲ衰微セシメ永
續ニ難カルヘキヲ察スル片ハ餘子ヲ僧トナス
トアリ而シテ童ニ男子ノミナラス女子ヲモ尼ト
ナストアリ

坊主
ノ
學問
ノ
大旨
ハ
凡ソ
人ノ
世ニ
處ス

坊主為ス所ノ學問ノ大旨ハ凡ソ人ノ世ニ處ス
ル自ラ招ク所ノ罪障多キカ為ニ死後必ラス苛
責ヲ免カレス成佛ノ規則ヲ守ルトハ固ヨリ凡
人ノ能クスル所ニアラス故ニ坊主ニ依頼シ其
誓願ヲ以テ佛ニ祈リ呵護ヲ請ントヲ求ム此ノ
如クスレハ何等ノ罪アル者モ救助ヲ得ヘク地
獄ノ火焰中ヲ脱スルヲ得罪障消滅シテ成佛ヲ
得ルノ地ニ至ルナリト
此ノ如キ成佛ノ誓願ハ唯有徳ノ男子ノミ其意

成佛誓願

生前の體を死後
に依りて

ヲ達スルヲ得ヘシ。貧人ノ如キハ地獄ノ苛責
ヲ救フヘキ補助ナシ。婦人亦難シ。假令坊主ニ寄
贈スルヲ多キモ能ハサルナリ。何トナレハ月經
アルニ由テ無限ノ罪障ニ汚染スルヲ以テ。成仏
ノ地ニ至ルヲ極テ難ケレバナリ。
又坊主公然トメ説テ曰ク。生前財寶ヲ寄贈スレ
ハ。死後十倍トナリテ。己ニ歸シ。更ニ快樂ノ地ニ
至ルヲ得ヘシ。之ヲ信セサル者ニハ。坊主証書
ヲ與ヘ。謹テ之ヲ貯藏セシメ。後日其人死シ。葬ラ
ントスル片ニ。之ヲ屍ト共ニ柩中ニ収メシム。魔

坊主証書

此証書ヲ見レハ皆遁走スト云フ。
坊主説法スルニ壯嚴ナル容儀ヲ以テス。高椅子
ニ上リ。四隅ニ貴價ナル日本衣ヲ掛ク。右側ニ階
級アリ。精巧ナル手摺アリ。左側ニ佛像ヲ安置ス。
日本式ニテ着坐ス。極テ高キ卓上ニアリ。阿弥陀
ナルアリ。釈迦ナルアリ。觀音ナルアリ。或ハ一二
ノ他佛ナルアリ。坊主宗旨ノ異ナルニ應シテ一
ナラス。佛前ニハ各種ノ供物アリ。是念佛ノ後坊
主。單競ヒ食スルナリ。佛ト供物ト共ニ高所ニア
リ。柵ニテ之ヲ區分ス。説法臺上ニ四角ナル天蓋

アリ。前ニ二大柱アリ。後ハ寺壁ニ接着ス。此天蓋
 ニ二燈ヲ掲ク。說法者ノ両側ニアリ。共ニ四火口
 ナリ。裂光ヲ放ツ。說法臺ノ前ニ四角ナル賽錢箱
 アリ。三隅ニ格子アリ。此隅キ錢箱ノ中間ヨリ說
 法臺出ツ。給仕人坐シ。或ハ立チ。以テ坊主ノ命ヲ
 須ツ。椅子上ニ一僧アリ。法華經ヲ誦讀シ。或ハ鐘
 ヲ鳴ラズ。說法者椅子ニ登リ。久時間自ラ戒シム。
 右手ニ濶キ金扇ヲ執リ。頭ニ非常大ナル絹笠ヲ
 戴ク。其製笠笠ニ異ナラス。坊主說法前ニ沉默シ
 テ。押柄ナル杖ヲ示シ。而シテ終ニ鐘ヲ鳴ラズ。衆人
 ヲ靜止セシムル信号ナリ。是ニ於テ一人モ語ル
 者ナシ。則チ說法ヲ始ム。法華經ノ一二章ヲ讀ミ
 其義ヲ演說辨明スルナリ。

カスバルヒレラハ。日本語ニ通熟セリ。証シテ曰
 ク。余屢坊主ノ能辨ナルニ驚ケリ。絶テ羅甸及ヒ
 希臘說法家ノ企テ及フ所ニアラス。其條理ノ通
 暢ナルヲ言辭ノ流利ナルヲ語句ノ隔縫アルヲ
 引証ノ確切ナルヲ如之所說ヲ高尚ナラシムル
 ニ。稍形容ヲ粧飾スルヲ以テ助クルニ似タリ。何
 トナレハ說法者椅子ニ立チ。絹布ヲ頭ヨリ被フ

り足ニ及フ。中間潤キ帶ニテ束ヌ。說法終ルハニ
其寺ノ為ニ賽錢ノ多カラシテ要ス。抑モ其說
法語中ニモ人ハ施興スルヲ良徳トス。生前施ス
所ノ財寶ハ死後十倍以上トナリテ自己ノ幸福
トナレハナリトノ意アリ。

聽聞者堂内ニ充滿シ。多クハ門ニ溢ル。小鐘ヲ鳴
ラスヲ聞テ衆皆拜跪ス。而シテ盛ニ祈念ス。此ノ如
キヲ大畧一時手ヲ奉テ剪線ヲ天ニ捧ク。是屢為
所ナ
頻回南無阿彌陀仏ト唱フ。蓋シ阿彌陀ヨ成佛
セシメヨトノ意ナリ。但シ此ノ如クスルハ阿彌

陀ヲ尊信スル派ノ人ノミナリ。或ハ釈迦。觀音。若
クハ彼此ノ日本神ニ祈ルアリ。然レモ阿彌陀ヲ
念スル者尤モ多シトス。故ニ貧人施興ヲ請フ者
常ニ唱テ曰ク。一念阿彌陀佛。消滅諸罪ト。其意ハ
内心ヨリ阿彌陀佛ノ名ヲ称スレハ成佛スヘシ
トナリ。

一僧說法スレハ他人ハ卓ノ階下ニ坐シ。手ヲ上
着ノ間ニ置キ。目ヲ地ニ注ク。此ノ如クナニ宗ア
リト云。法華經ヲ信スルハ成佛セサルナシトス
ルハ皆一ナリ。他ハ各宗趣ヲ異ニス。阿彌陀ノ子

宗門宗派
三宗

ナル観音ヲ信スル人ハ。むモ之ヲ神聖ナリトス。此輩剪緑蔷薇花ヲ以テ諸所ヲ巡拜スルナリ。又坊主ハ宗旨ノ異ナルニ應シ。衣装亦異ナリ。或ハ黒衣ナルアリ。或ハ灰白衣ナルアリ。此ニ宗間ニハ常ニ争論止マサル所ナリ。然レモ僧徒ノ員数ハ算ス可ラサルガ如キヲ以テ。寺院ノ員亦夥シキヲ驚クヘシ。各人ナニ宗ノ内何レヲ信スルモ妨ナレトス。己レノ安心スル所ヲ撰フノミ。故ニ日本人ハ各自ノ意ニ任セテ彼此ノ可トスル者ヲ撰フ。一家ニ於テ父ハ子ト異ニ。婦又此ニ

意ニ任セテ撰フ

釋迦世に現スル
八千回

人ト異ナリ。或ハ帰依者三百人ニ及フアリ。又五十人ナルアリ。然レモ其五戒ヲ守ルニ於テハ相同シ。殺生戒。偷盜戒。妄言戒。邪淫戒。飲酒戒。是ナリ。各人ノ之ヲ嚴守ス。凡ソ各人一途ニ熱心シ。其行ヲ脩メ。佛ヲ念スレハ。永久ナル苛責ヲ免カルヘシト信スルナリ。是ニハサヘリウスノ証スルカ如ク。貫珠ヲ以テ一念毎ニ一珠ヲ纏ル。又日本信心者ニハ。大ニ嘲ルヘク笑フヘキ所業アリ。其佛ノ縁起ニ應シテ祭事ヲ行フナリ。尤モ甚タシキハ。釋迦ハ世ニ現スルヲ八千回ナリト

ス。是。ブ。ラ。ミ。ネ。ス。學。ト。稍。似。タル。所。アリ。其。主。神。ウ
イ。ス。ト。ノ。ウ。自。ラ。誓。テ。十。回。世。ニ。生。レ。ン。ト。期。ス。初
回。ハ。魚。形。ヲ。現。シ。マ。キ。ヤ。ラ。キ。ヤ。シ。ヤ。ヲ。逐。フ。為。ナ
リ。此。者。經。典。ヘ。ダ。ム。四。部。ヲ。携。テ。海。中。ニ。遁。レ。タ。レ
バ。ナ。リ。則。チ。ウ。イ。ス。ト。ノ。ウ。ニ。逐。ハ。レ。終。ニ。殺。サ。レ
タ。リ。第。二。回。ハ。ウ。イ。ス。ト。ノ。ウ。コ。ウ。ル。マ。則。チ。龜。形
ヲ。取。ル。メ。ロ。ウ。ソ。山。ヨ。リ。大。洋。ニ。投。セ。ラ。ル。是。ア。モ
ル。タ。ム。カ。レ。コ。テ。ウ。イ。ス。ヤ。ム。毒。ヲ。防。ク。為。ニ。ス。ル
ナ。リ。然。ル。モ。世。界。海。底。ニ。沉。マ。ン。ト。ス。凡。此。山。重
シ。是。ニ。於。テ。ウ。イ。ス。ト。ノ。ウ。龜。形。ニ。変。身。シ。世。界。ヲ

背。上。ニ。載。テ。支。ヘ。リ。此。龜。世。界。ヲ。載。ス。ル。ト。久。ク。シ
テ。再。ヒ。水。丞。セ。シ。ヤ。又。海。丞。セ。シ。ヤ。代。テ。之。ヲ
載。ス。第。三。回。ハ。ウ。イ。ス。ト。ノ。ウ。丞。ニ。変。身。ス。故。ニ。ト
リ。モ。タ。ム。街。ニ。有。名。ナル。寺。ア。リ。ア。ジ。ワ。ル。ヲ。ト。称
ス。此。寺。ニ。土。中。ヨ。リ。浮。フ。ノ。丞。ア。リ。神。事。ス。ル。所。ナ
リ。第。四。回。ハ。ウ。イ。ス。ト。ノ。ウ。羊。人。羊。獅。子。ト。ナル。第
五。回。ニ。ウ。イ。ス。ト。ノ。ウ。ウ。イ。ハ。ナ。ト。称。シ。テ。ベル
リ。ト。云。フ。鳩。ニ。変。シ。又。パ。レ。シ。ラ。マ。ダ。マ。ル。ヲ。タ
ラ。マ。キ。リ。ス。ト。ナ。ボ。ウ。ン。ダ。及。馬。ケ。ル。キ。ト。ナル。其
最。ナル。發。現。ハ。キ。リ。ス。ト。ナ。ト。為。ル。所。ナ。リ。何。ト。ナ

後世安樂
カミ 現在幸福

レバブラミネバドマナバノアブラハムロゲリ
ウスニ話セシ如ク。他ノ発現ニ於テウイストノ
ウ唯其信心ノ一部ヲ以テ現ハレタレハナリ。猶
一大塊ノ火粉ノ落ルカ如シ。然レモ全神ノキリ
ストナノ形トナリ。天空虚ニシテ無神トナレリ。
日本人ハ此主佛ノ外更ニホトケ及ヒカミヲ敬
礼ス。ホトケトハ数百年前学識拔群ノ僧ヲ尊称
スルナリ。カミトハ軍効アリタル勇将。或ハ新事
創見者ニテ其名赫々タル者ナリ。ホトケハ後世
ノ安樂ヲ願フヘクカミハ現世ノ幸福ヲ祈ルヘ

或三坊主九
カミ

シ。ネキユイロシ。デニシキ。摩利支天等ハ軍事ニ
関ス。大佛。多門天。毘沙門天。ホモコシジス。及ビソ
ヨリス。ハ天ノ方角ヲ守護ス。
サロリウスハ坊主分ツ所ノ宗旨ヲ九派ナリト
ス。然レモカロンハ日本紀行中ニ於テ十二派ナ
リトス。真言宗ハデニシ佛ヲ尊ヒ。禪宗ハホベム。
法華宗ハミカン。淨土宗ハ阿弥陀。天台宗ハキユ
オキユイウム。バラカキユ。正ハ断ヘス神聖ノ悟
道ヲ勤ム。天台ハ自ラ罪アリトシ。一向宗ハ阿弥
陀ニ依頼スルニ非サレハ。他ニ成仏ノ道ナシト

ス此ノ如ク其旨趣ヲ異ニスルヲ以テ各人自意ニ任セテ其可トスル所ニ隨フ或ハ許多ノ人能ク成佛シ得ルトスルアリ或ハ阿弥陀ノミヲ仏ナリトシテ尊奉スルアリ

一向宗ニ一主僧アリ多ク汚行ヲ縦ニスレ凡人民ハ大ニ之ヲ尊奉ス人其前ニ出レハ必ラス并跪シ罪障消滅ノ法ヲ求ムネウゴリハ小角ヲ本尊トス信心造矢及ヒ鬪争ノ三種アリレギオシハハマクテシニ同シキ規則ヲ示ス山伏ハ六十日間難行スルノ後富士山ノ頂ニ登リ怖ルヘ

キ扶ニテ魔ニ誓フ人民大金ヲ抛テ其祈禱ヲ請フ但シ坊主ノ第十二宗ハ一向宗ナリ其身位及ヒ威權大ニ他宗ニ擢ワゲンギウスハルボルボシシ及ヒ山伏ハフジオンヨリ分岐セル日本坊主ナリ幻術ニ巧ナリ然レモ其貧困ナルト苦業ノ為ニ坊主中ニ齒セス

坊主所業ノ嘲ルヘキハ祭日ニ於テ明テカニ觀ルヘシ是ニハ坊主モ心ヲ用フル所ナリ故ニ日本人ハ八月祇園名一神祭日ノ慶賀ノ式左ノ如シ

市中各所ニ棧敷ヲ構フ。藝人ノ多寡ニ應シ大小アリ。衆人群集シ。公然タル膽禮日ニ異ナラス。十五車。或ハ二十車前行ス。各車四十人ニテ引ク。車上ニ多数ノ少年アリ。唱歌。打鼓。或ハ吹笛ス。遊戯ノ男女ハ。各其黨ノ車アリ。又他車ニハ軍装ノ者充満シ。共ニ絹衣ヲ服ス。幕内ニ舊日本將士ノ美勲偉功アリシ者ノ像ヲ置ク。此ノ如クニテ徐行シテ。神社ニ至ル。夜ニ及テ社内ヨリ二個ノ神輿出ワ。一ニハ尊信スル神像アリ。一ニハ其侍妾ノ像アリ。第一輿ニ属スル輿丁ハ。神ノ重量ノ為ニ

衰弱スルニ似タリ。然ルニ又他ノ一輿来ル。是ニハ神ノ正妃ノ坐スル所ナリ。使者ヲ送り。夫神ノ淫女ト密會スルヲ詰ル。是ニ於テ輿丁等逃走ス。主神ハ正妃ノ為ニ督責セラレ。深ク痛心ス。此痛心ノ為ニ輿丁等啼泣ス。而シテ正妃ノ意ノ解ンテヲ願ヒ。捧跪シテ祈念ス。既ニシテ終ニ三輿相共ニ連行シテ。社内ニ入ル。是ニテ祭事終レリ。

摩利支天
三月
軍神摩利支天ハ。三月血戦日ヲ祭日トス。午後軍士夥シク集會ス。各肩上ニ神像ヲ画ク。二隊ニ分テ陣ス。少年先ツ石ヲ投ス。此機ニ乘シテ壯者双

方ヨリ少年ノ間ニ入り。而シテ始ニ球ヲ交換ス。後
ニ兩隊相雜ハリ。日本カヲ抜キ接戦シ。甲乙何レ
カ敗走スルマテ連鬪スルナリ。
一向宗僧ハ。年々阿弥陀ノ為ニ。一祭事ヲ行フ。此
時多人群集シ。堂ノ戶外ニ蟻集ス。其戸ヲ開クニ
方テヤ。一頓ニ入ラントスルヲ以テ。相壓死スル
ニ至ル。加之或ハ故ニ倒レ。多人ニ踏殺サレテ。本
望トスルアリ。則チ謂フ此ノ如クニテ死スレハ。
直チニ阿弥陀ノ傍ニ至ルヲ得ヘシト。夜ニ及
テ一僧死者ヲ引導ス。此時全群死者ノ為ニ哀悼

シ。其信心ノ堅固ナルヲ賞讃ス。
佛事ニ関係スル此寺ノ行事ノ外。日本人各種ノ
体操法アリ。其内をモ盛ナルハ相撲ナリ。闘場ハ
柵ニテ四角ニ區域ス。柵外ニハ觀者羊身ヲ現ス。
高丘上ニ行司アリ。四角ナル屋根ノ下ニ在リ。四
個ノ圓柱ニテ支フ。カ士ハ髮毛ヲ集メテ頂ニ束
ネ。餘毛ニ紐ヲ附テ肩ニ下ク。上身ハ全ク裸露ス。
但シ兩眼及ヒ背ニハ。將軍ノ記章ヲ現スル銅板
ヲ當ツ。胸前ノ板端ニ孔アリ。ニ索ヲ通シテ相緊
束シ。脛ニモ此ノ如キ板ヲ當ツ。袴ハ兩脚間板ノ

末ニ掲ケ拳ク。ニカセ相接シカヲ角シ板ヲ闘シ。
 優劣ヲ決シ。既ニソ勝ツ者ハ行司在ル所ノ丘上
 ニ進ミ登ル。則チ銀板或ハ金板ヲ賜フ。或ハ將軍
 ノ記章ヲ具スルアリ。又ナキアリ。日本人此ノ如
 キ所業ヲ為スノ目的ハ。往時希臘人及ヒ羅馬人
 ノ目的ニ異ナラス。幸時練煉シテ以テ戦時ノ用
 ニ供セントスル者ナルヲ疑ナシ。何トナレハ衣
 剥氏ノヒロロニミユスメルキユリアリスニ據
 レハ。相撲ハ肉筋及ヒ神經ヲ温暖ニシ。且ツ強壯
 ニスト。テオドリユスブリスシアニユスハ。此体

操ヲ神思爵愛。及ヒ感冒胃ニハ極テ要アリトス。
 オリバシウスハ水腫ニ効アリトス。又他醫ハ之
 ニ反スルノ説アリ。殊ニ激運動ヲ避ク。但シ相撲
 ノ技ノ起ル所。抑モ尚シ。アテネン王テセウス始
 テ軍士ヲシテ相撲セシメリ。プラトハアンテウ
 ス及ヒセルシオンヲ角カ技ノ開祖ナリトス。場
 ヲ區劃シテ。屢自ラ之ヲ演習セリ。ヘイデンドム
 ノ外。此技ノ舊古ナルトハ。モセスニテ明ラカナ
 リ。是ヤコプバトリアルス説アリ。曰ク彼神ト角
 カセリ。而メ其技ニ於テ敗ラレタリ。抑モイスラ

イルノ子ハ。此日マテ腰ノ関節ニ在テ引延ハサ
レタル神經ヲ食セス。是神ヤコブノ腰ヲ引延ハ
シ神經ニ衝當シタレハナリ。
使節フリシウス。及ヒブルークホルスト。千六百
五十年四月三十日。京都ヲ出途ス。驚クヘキ貴價
ナル橋ヲ過ク。此橋長サ二百三十步ニテ市中ヲ
縦割スル河ニ架ス。其杭ハ美ナルアルドイン石
ニ成ル。岩ヲ彫リタルナリ。平ニテ兩側ニ石欄干
アリ。此欄干ニ大ナル銅擬寶珠ヲ備フ。日本繁華
ナル一地。伏水ニ達セリ。伏水ニテ四船ヲ備フ。以

テ大段ニ下ラシカ為ナリ。路次澱ヲ過ク。堅城ア
リニ大水車アリ。連々河水ヲ汲ミ城内ニ入ル。河
ニ架シテニ美橋アリ。京都ノ橋ニ異ナラス。
此水上ヲ通行以ヘカラシムルニハ古来今日ニ
及テモ財ヲ費ヤシカラ旁スルヲ莫大ナルヘシ。
トリアニユス帝。政羅巴ノ大河ドナウニ橋ヲ架
スルハ有名ナル所ナリ。バウリエスヨヒウス証
シテ曰ク。此時四角ナル石ニテ三十六柱ヲ造レ
リ。一柱毎ニ高サ百五十尺。幅六十尺。各柱相隔ツ
ト百七十尺アリ。今日尚存スル所ナリ。

羅旬詩人ノ言フ所殺生橋ハ人誰カ之ヲ知ラサ
ランヤカリギユラニ架スル所ナリバヤトビユ
テオリトノ間ノ河口ニ架ス長サ三千六百歩ア
リ船ヲ繫テ二列トナシ碇ヲ停ム船ニ板ヲ附ケ
板ヲ土ニ着ク此新橋ヲ初日ニ貴價ナル馬ニテ
彼此往復ス頭上ハ剪線ニテ飾ル腹囲ニハ多金
ノ外套ヲ掛ケ手ニ斧ト楽器トヲ執ル第二日ニ
ハ女王パルチセンノ子ダリウス車ニ坐シテ前
行シ羅馬護衛兵從行ス第三日ニハ無数ノ觀者
群集ス則チ悉ク之ヲ水中ニ倒シ落セリ

又百露人ノ工業記セサル可ラサルアリ百露ノ
シキエートトコルラオトノ間ニ一水アリ潤ク
且ツ深シ之ニ一橋ヲ架ス蒲ノ類ニテ編ミ水上
ニ渡シタリ重荷ヲ負テ渉ル片ハ動搖シテ太夕
危シ

日本人ノ架橋法ハ其舊本國支那ヨリ傳來スル
所ナリ授エハ其巧妙絶テ支那人ニ及フヘキ者
ナケレハナリ造法ノ巧ナルヲ員數ノ夥シキヲ
着目スヘシ其最ナル地ハハンキエインハンセ
ウ及ヒ此地各一萬橋アリ此ノ如ク多數ナルヲ

河橋

以テ。工事精熟自ラ巧妙ニ至レルナリ。
セシニハ。ハンセウト。シカンヒユトノ間ニ驚
クヘキ一橋アリ。ギンタオト称ス。其建曆ニ支
那帝リ、ウパンクノ將軍ナルカングレアシグ
十萬人ヲ使役シ。軍勢ト共ニ從事シ。山ヲ頽シ谷
ヲ埋メ。木材ヲ河流ニ輪レリ。恐ルヘキ深所ニ柱
ヲ建テ。双方ニ欄干ヲ造ル。

之ニ劣ラサル驚クヘキハ。西高山ノ間ニ在ルゴ
カン街ニ傍ラクセ河ノ橋ナリ。此橋ハ一柱ナリ。
幅四百尺。高五十九ル。イオンナリ。双方ニ石造胸壁
アリ。

ギン橋

ニシテ地方ニ於テ。ミンギエス帝。千六百年ニ
二十六鏈ノ一橋ヲ造ル。鏈ヲ二岩ノ間ニ張ル。怖
ルヘキ瀑布ヲ過リ。此鏈ニ太キ柱。及ヒ板ヲ列ス。
大重荷ヲ載スレハ。動揺シテ行人ノ心悸怯ス。
ガシギンニ在ル橋ハ。構造極テ狭シ。巨額ノ財寶
ヲ費ヤス所ナルニ。落成ニ及テ忽チ潰崩流没セ
リ。

ロンドン橋

北京ノ第二府ニヘンセウニアルロヤング橋ハ
尤モ拔群ナリ。長サ三百六十丈。幅一丈半。鐘臺カ

ヤング五百万々ジュカリテシテ費セリ。但シ若シ尋常法ノ如クニ廉價ノ傭料ヲ以テ人ヲ使役セバ。工事遅々シ。費用却テ二十倍ノ貴キニ及フヘキ所ナリ。全橋大ナル光石ニ成ル。杭上ニ架スルニアラス。三百ノ大礎上ニアリ。彫刻船ノ如シ。面ヲ尖ラシテ以テ水勢ヲ殺ク。石ノ上邊接合スル所ニハ柱ヨリ柱ニ至ルマテ其幅同シ。大石五個アリ。各長サ十八步。幅厚共ニ二步。此石ハ黒色。檟樹柱ノ如シ。其数千四百ナリ。双方ニ欄干アリ。他ノ立派ナル粧飾アルノ外。高礎上ニ不造ノ獅子

像アリ。是市中ヨリ城ニ入ルノロヤング橋ナリ。然レモ城ノ他側ニ橋ノ他部アリ。市ヨリ城ニ入ルノ橋ニ比スレハ稍小ナリ。リピンク市側チンセハ橋ハタンキ河ニ架ス。石造ナリ。此ノ如ク驚クヘキ塚工ハ支那ノ特有ニシテ。全亞細亞。歐羅巴。亞弗利加。及ヒ亞墨利加ニ起絶スル所ナリ。故ニ日本人ハ架橋法ヲ支那人ニ倣フナリ。

阿蘭使節澱ヲ過キ。夜ニ入テ牧方ニ着セリ。而シテ夜ニ時大阪ニ入レリ。沿路各様ノ山伏ヲ見ル。此輩常ニ二人同伴ス。破衣ヲ着ケ。木板ヲ裸体ニ掛

ク鬘及ヒ頭髮ヲ剃除セス。野蠻人ノ状ヲ為シテ
出現ス。而ノ髮毛及ヒ爪ヲ短截セサルハ蓋シ内
裡ノ毛爪ヲ短截セサルニ擬スルナリ。頭上ニ六
角帽ヲ戴ク。精密ニ編ム所ナリ。二尖ハ高ク聳ユ
ニハ前ニニハ後ニ出ツ。常ニ字ヲ記スルノ圓底
瓢角製ノ念珠ヲ執ル。是念佛スル所ニ一唱一珠
以テ其数ヲ算スルナリ。其寺ハ高山ノ頂ニアリ
之ニ至ルハ極テ困難ナリ。此奇怪ナル僧ハ日本
人ノ大ニ尊信スル所ナリ。病者及ヒ死者アル所
之ヲ請招ス。則チ終夜着坐シ。神聖ノ言辭ニテ咒

言ス。其言日本人ノ常語ニ異ナリ。其義ヲ解スル
ヲ能ハス。以テ病者及ヒ死者ヲ阿弥陀。釈迦。觀音
或ハ他仏ニ向テ祈念スルナリ。故ニ病者及ヒ死
者ニハ大ニ要アリトスルナリ。
使節フリシウス。及ヒガルソホルスト。大阪ニ
着シ。五月三日町奉行及ヒ城代ノ両家ヲ訪ヒ。定
例進物ヲ捧ケリ。此時ニ際シテ驚クヘキ大阪ヲ
一見スルヲ得タリ。其外圍ハ三里ナリ。大阪ノ
一高丘上ニ築ク所ニテ。南方大畧羊時程ニアリ。
大阪ノ繁華ヲ飾ルニ足ル。此地ニハ巨高多ク住

居シ。銀行ニハ少クモ三萬コロシラ備フ。金城
アルドイン石ニテ築キ。平滑ナルヲ削ルカ如シ。
各石長サ一尋ナリ。壁ハ非常ニ高クマテ塗墁ス。
蘭使従者ノ証スル所ニテハ。壁側ニ立テ濠ヲ下
視スレハ。其深キカ為ニ目眩シ心悸スト。外濠ノ
底ハ水下三十三尺。濠三百九十尺ナリ。内濠ノ深
サ亦同シ。但幅百四十尺ヲ減ス。

將軍太閤様ハ。世界ノ第八奇観ヲ供センカ為ニ。
此大城ヲ築クニアラサレハ。誰カ敢テ詰ク巨額
ヲ抛ツヲ為ンヤ。此將軍伏水ニ在テ病ヲ養フ。
其子秀頼ノ幼少ナルヲ歎シ。日本將軍ノ職位ヲ
遺授セン。トテ懇願スル為ニ。大ニ苦慮シ。大坂城
ヲ増築シ。病勢ノ次第ニ増加スルヲ厭ハス。攻テ
抜ク能ハサラシメント欲ス。之カ為ニ數千人ノ
職エヲ促カシ。成功ヲ速カニセシム。城外七万ノ
人家ヲ三日内ニ轉移セシムル為ニ。二十四時間
ニ悉ク毀崩セシム。而テ人民ニハ別ニ廣地ヲ共
ヘ。新居ヲ營マシム。總テ工作官ノ指令ニ任ス。縦
横直線ニ市街ヲ開ク。職工奔馳。新街ト城ト共ニ。
相競テ速成ヲ責ム。太閤様頻ニ速成ヲ求メ。使命

ヲ重ネテ工事ヲ督責ス。

是ニ於テ五奉行ヲ撰定シ。此輩ヲシテ秀頼ノ後見人大御所ト共ニ國事ヲ議セシメ。更ニ諸人ニ遺言シ。秀頼十五歳ニ及フヲ俟テ。將軍ノ冠ヲ戴カシムヘシト。然ルニ太閤様薨後ニハ。各地一揆蜂起シ。各人割拠シ。將軍ノ推柄ヲ握ラシテ。勉ムヘキヲ察シ。依テ各諸侯ヲシテ領地外ニ出シ。其カヲ殺シテ謀リ。在伏水ノ邸第ヲ大坂城内ニ移サシム。此轉移ノ為ニハ。太閤様巨財ヲ惜マサリシナリ。

太閤様死前ニ於テ非允ノ智謀勇略ヲ以テ。諸事ヲ整頓シタリト。虽薨後忽チ日本全國争亂ニ歸シ。五奉行ハ内府様ニ抗拒ス。是ニ於テ内府様一戦シテ大ニ之ヲ破リ。終ニ兵ヲ大坂ニ進メリ。抑モ大坂城ハ。百物充備セルヲ以テ。若シ城代毛利殿能ク之ヲ防拒セハ。何萬ノ重兵ヲ以テスルモ。終ニ抜クヲ能ハサルヘキナリ。

秀頼ハ堅牢ナル城ヲ有スルモ。終ニ岳父内府様ノ為ニ攻落サレ。内城ヲ焼カル。但シ速カニ修理シタルヲ以テ。灰中復タ新城ヲ出シ。總テ舊基ニ

倣フ。是今日人目ヲ驚カス所以ナリ。外郭ハ濠底ヨリ蒼色ノアルドイン石ニテ地上ニ築ク。一尺隅角ヲ截リ球状ナラシム。三門ニ傍テ外郭高更ニ高ク。濠ニ向フ。壁亦蒼色アルドイン石ニ成ル。水上ニ拔ク。一百八十尺。胸壁外ニアリ。壁上ニ粉墁アリ。両側石灰ヲ厚墁ス。

上ニ記スル球状壁ノ外端ニ高櫓アリ。三層ナリ。アルドイン石ニテ築ク。胸壁上ニ突出ス。二個ノ楷梯アリ。共ニ別屋根ヲ具ス。但シ上梯ハ下梯ヨリハ小ナリ。各室四方開放ス。以テ敵兵ノ遠来ヲ

観ルヘシ。此櫓十六アリ。諸般ノ兵器ヲ貯フ。矢

○鎧 ○兜 ○甲 ○陣笠 ○楯 ○劍 ○熊手 ○鎗 ○懐

劍 ○匕首 ○小刀 ○鞘 ○火繩 ○弓弦 ○投矢 ○先

太ッ棒 ○弓 ○潰崩具 ○彈丸 ○手銃 ○火矢

及ビ他ノ日本武器ナリ。

堤道アリテ大門ニ進ム。両側ニ石胸壁アリ。此胸壁ハ外郭ニ墁接ス。壁ノ頂ニ達ス。此壁ト門ノ國ト平均ス。門ハ四角ナリ。上ニ屋根アリ。後ニ斜向ス。門ヲ過クレハ一地アリ。亦四角ナリ。四方高壁アリ。外ニ挺出シテ門ノ屋根ニ達ス。高サ一様ナ

リ左角ニ大櫓アリ。右側ノ内門ノ入口ニ立派ナ
ル番所アリ。此壁アル所ヨリ。櫓下濶所ニ行ク道
アリ。直行目ヲ極ム。右側ニ長四角ナル石堤アリ。
一側ハ二個ノ大球壁ニ向テ聳ユ。他ノ三側ハ上
ニ云フ濶所ノ大部ヲ為ス。入口ハ直行シテ内城
ニ向フ。

此区域内ニ夥多ノ邸第アリ。是太閤様ノ築ク所
ニテ。日本諸侯ニ要求シ。伏水邸ヲ毀テ之ニ移シ
建テシメタル所ナリ。其邸第ハ立派ニシテ内ニ廣
室アリ。外ニハ濶所アリ。壮大華美ヲ極ム。然レモ

第一街ノ右側ニ第三ヲ接ス。其二壁ハ城堤ニ同
シ。第三壁ハ此四角ナル堤ヲ双方ニアル極テ長
キ堤ニテ區別ス。第四壁ノ濶所ニアリ。茲ニ門ヲ
開ク。之ヲ過クレハ街ノ入口ナリ。之ニハ各種ノ
建築アリテ立派ナリ。

長堤ニ二重ノ壁アリ。外邊ハ城濠ヨリ成ル。極テ
壯嚴ナル宮殿アリ。其屋根ハ大坂ニ聳起ス。胸壁
ノ頂上ニアリ。堤ノ方アル内壁ハ外壁ト第三壁
トノ間ノ中通ニアリ。第三壁ハ内城ノ外濠ノ周
圍ニ達スル者ナリ。二門アリ。斜ニ相對ス。一ハ第

三壁ニ一ハ中壁ニアリ。之ヲ過テ上ニ言フ細長
キ堤ニ至ルヘシ。是上邊ニハ斜壁アリテ第二堤
トヲ分畫ス。第一ノ如クニ長カラス。又立派ナル
建築ナシ。但シ露出スルニアラス。

此少許ノ堤上ニ外壁ニ四ノ裂アリ。後裂ニ四角
ナル櫓アリ。上層ハ番所ナリ。壯嚴華美ノ幕アリ。
此櫓ヨリ胸壁ニ向テ直壁アリ。濠ニ赴クヘシ。其
外部ハ高ク款テ第二門ニ及フ。

此門ハ第一門ニ其形異ナルヲナシ。内部ハ四角
ナル濶所ナリ。壁ニテ限ル。左側ニ番所アリ。壁ニ

接ス。右側ニハ胸壁上ニ高櫓アリ。更ニ細長キ濶
所アリ。諸種ノ建築アリ。多クハ下葺ニ属ス。此堤
ハ内部ハ二重ノ球壁ニ達シ。而シテ外部ハ十六櫓
ノ一ニ接ス。内壁ノ外城ノ堤ニ沿テ。非常ニ長キ
馬埒アリ。更ニ横壁アリテ。濶所ヨリ閉テ。内城ニ
入ルノ橋ヲ架ス。此濶所ノ上ニ胸壁ヨリ二櫓ヲ
建ツ。

斜ニ此橋及ヒ堤ヲ過クレハ二個ノ倉庫アリ。一
ハ他ヨリ大ナリ。此庫側ニ横ニ壁アリ。外部ニ起
リ。周囲ハ内濠ニ終ル。小庫ノ前面ヲ距ルト遠カ

三三
ラスノ門アリ。之ヲ過クレハ第二門アリ。之ヲ過
クレハ二石障ノ間ニ入ル。一ハ内濠ニ接シ。一ハ
二門ノ間ノ通路ヲ限ル。三堤ノ周囲ニアリ。第一
堤ハ大ニ大ナリ。立派ナル宮殿アリ。此堤ノ内壁
ヲ過キテ他ニ出ツ。尚立派ナル建築アリ。其極上
ニ言フ二門間ノ通路ニ終ル。第三濶所ハ第三門
ニ赴クヘシ。亦四角ナリ。濠ニ寶シタル堤アリ。之
ヲ過キテ外ニ行クヘシ。此門ノ濶所内壁上ノ入
口ノ右側ニ立派ナル室アリ。其下ヲ過キテ壁ア
ル街ニ行クヘシ。其右壁ハ遙ニ右ニ挺出シテ門

内ニ終ル。此門ハ内城ノ橋ヨリ遠カラスノ他門
ニ對向ス。此内門ハ大ニ高シ。之ヲ下レハ長橋ア
リ。斜ニ下テ濶所ニ出ツ。茲ニハ上ニ説ク如ク許
多ノ邸第アリテ。壁堤ヲ見ル。橋ノ双方ニ避災庫
アリ。二ハ内濠ニ向フ。七ハ外堤ニ向フ。此七庫ノ
後ニ更ニ五庫アリ。皆將軍ノ寶藏ナリ。
内城ハ濠ニテ囲ム。其幅二百五十尺。深サ三十三
尺。一方ハ空濠ナリ。双方ニ胸壁ヲ構フ。次第ニ高
クメ終ニ門ニ至ル。門ニハ銅ヲ遍貼ス。之ヲ過ク
レハ大街ナリ。四角ナル市場ニ終ル。然レ氏第二

門ハ直ニ城ノ他側ニ至ルヘシ。此濠水ナシ。非常ニ貴價ナル橋アリ。濠ニ架ス。欄干ニハ金ヲ純金ニテ包ム。門亦然リ。此欄干ト門トノ價ハ金幾千噸ナルヤヲ知ラス。門内ニハ大ナル濶所アリ。四隅ニ石壁アリ。濶所ノ右側ニ内門アリ。之ヲ過キテ濶キ壁アル街ニ至ル。街終ル所ニ復ト非常ニ貴價ナル門アリ。其門内ニ細長キ濶所アリ。後ニハ四角ナルアリ。茲ニ三個ノ避災庫アリ。殊ニ銀ヲ貯フル所トス。其藏スル所ノ額ヲ測ルト難シ。何トナレハ日本將軍年々カロシテハ諸侯

近侍及ヒ諸官吏ニ二千四百噸ヲ賜フト。虽收納スル所ハ更ニ巨大ナルヲ以テ。之ヲ推測スルト能ハス。

内城

此内城ノ壁ハ水上ニ出ルト百六十三尺。青色アルドイン石ヲ墺スル所ナリ。十二ノ大球壁アリ。各々櫓アリ。尖頂天ヲ衝ク。之ニ諸般ノ武器ヲ貯フ。騎兵又歩兵為ニスルナリ。陣營ノ具アリ。糧食アリ。郭ノ殆ント中央ニ第三城アリ。大ニ他ノ建築ヨリハ高ク聳ユ。其根基ハ青キ石壁ニ安ス。其制四角ナリ。城ノ如ク球壁ニテ分ツ。其石極テ大

ナリ。接隙尤モ巧ナリ。城ノ地面ヨリ大ニ高シ。殆
シトニ百尺内外ナリ。
此ノ如ク。塼工ノ巧ナルノ外ニ。將軍ノ偃息所ア
リ。下ノ張り出シハ。潤キ廊下ニテ。弓杖ナリ。外ニ
屋根アリ。窓及ヒ入口ヲ蓋フ。第一張出シノ外更
ニ他ノ五アリ。高サ漸次ニ減ス。第二層ニハ。七六
室アリ。第三層亦然リ。但シ小ナリ。第四層ハ。六室
アリ。第五層ハ。五室。第六層ハ。四室ナリ。第一ト第
二トノ屋根ハ。石甍ナリ。第三第四ハ。鉛茅五銅。最
上ハ金甍ナリ。



將軍偃息所ノ屋根亦然リ。櫓ノ側ニアリ。偃息所
ハ下ハ長ク。四棟ナリ。上ハ立派ナル女官ニ接ス。
之ニハ貴女充滿ス。
但シ櫓ノ他側ニ二宮アリ。青壁ニテ構フ。各室千
疊ヲ敷クヘシ。疊ハ長サ六尺。幅三尺ニ寸五歩ナ
リ。此宮前ニ四角ニ塼セル地アリ。側ニ一門アリ。
屋根ニ二個ノ金塊ヲ置ク。之ヨリ馬廐ニ赴クヘ
シ。諸道金板ヲ貼ス。行クト久シカラス。一門ア
リ。外門ニ斜ニ對向ス。元ノ内城ニ入ル者。此二門
ヲ過サルヲ得ス。又上ニ言フ二宮ニ接シテ。悦フ

ヘキ園圃アリ。茲ニ立派ナル偃息所アリ。是將軍
大坂城ニ滞在スル所。屢行遊スル所ナリ。
園圃ニ人造ノ丘アリ。美屋ヲ構フ。此丘ノ右側ニ
六個ノ避災庫アリ。其三ハ銀貨ヲ藏シ。三ハ金貨
ヲ貯フ。此ノ如キ立派ナル構造ハ。亦日本人ノ支
那ヨリ出タル一証ナリ。何トナレハ凡ソ全地球
上。許多ノ驚駭スヘキ宮殿ノ盛大ナルヲ支那ニ
比スヘキ者ハ絶テ他ニアラサレハナリ。
此有名ナル城ヲ距ルヲ遠カラサレ地ニ一高山
アリ。是年々山伏登攀シテ。人形ヲ現シタル魔ゴ

キユイスニ。自己ノ犯罪ヲ懺悔スル所ナリ。一
完魔前ニ進ミ出テ。大聲ニテ我カ罪ヲ陳述シ。群
人ニ聞ク可ラシム。此事ヲ勤メテ後。天地ノ間ニ
一刃ヲ掛ル。トベテテルダユイ。日本紀事ニ記
スルカ如シ。此ノ如キ所業ハ。傍人ニハ各様ノ状
ヲ示スナリ。則チ笑フアリ。泣クアリ。十分ニ懺悔
シ終ル。後群人ニ背向ス。然レ此事ヲ隱秘シ。明白
ニ陳述セサレハ。其人ゴキユイスノ為ニ。山ヨリ
投棄セラレ。此時一身千片ニ粉碎セラルト云フ。
使節フリシウス。及ヒブルトクホルスト。大坂ニ

テ旅装ヲ理シ。五月六日再ヒ出帆セリ。日暮西風
 ナリ。進行僅少ノミ。然レ既終ニ海口外ニ出タリ。
 而シテ左側堺ニ向フ。此繁華ノ市外ニ大宮アリ。内
 裡ノ側ニアリ。市中神社アリ。大明神ヲ祭ル。堺人
 民ノ建築スル所ナリ。
 大明神トハ神聖ナル人ノ尊称ナリ。太古日本皇
 帝ノ配ナリ。七月ニ於テ嘲り笑フヘキ容儀ノ祭
 典アリ。其状左ノ如シ。先ツ市中通街ヲ柱及ヒ
 板ニテ塞キ。双方ノ往來ヲ止ム。此區域長サ二百
 歩。他人此内ニ入ルヲ許サス。午後大明神通過ス。
 各方周圍ヨリ無數ノ人員輻湊ス。明神ハ第一列
 ニ馬上ニテ。非常ノ大刀ヲ拔身ニテ携フ。之ニ副
 テ二少年馬上ナリ。一ハ神弓ト神矢トヲ持ツ。一
 ハ鷹ヲ執ル。此少年ノ後ニ多人從行シ。数隊ヲ為
 シテ各様ノ陣形ヲ造ル。更ニ夥シキ歩人アリ。皆
 誓ニ依テ此祭事ニ加ハルナリ。或ハ敲キ。或ハ踊
 リ。或ハ歌フ。反復シテ千歳樂。萬歳樂ト唱フ。蓋シ
 千年ノ歡。万年ノ樂トノ意ナリ。此歩人ノ後ニ神
 主アリ。巧ニ歌フ。之ニ次テ堺ノ貴人等進行。皆馬
 上ナリ。最後ノ隊ニ繼テ六人ノ使魔女來ル。衣服

ハ麻布ニテ製ス。多女ヲ伴フ。相錯綜シテ迷歩ス。後邊ノ貴装ノ一隊来ル。此輩諸街ヲ巡行シテ終ニ板ニテ囲ムノ街ニ入ル。之ヨリ大明神ノ輿ヲ迎フ。此輿ハ諸方鍍金シ。輿丁二十人ノ肩上ニアリ。皆相和シ歌フ。千歳樂。万歳樂ト。神輿ノ通行スルヲ見ルヤ。觀者皆錢ヲ投シ。神輿ヲ拜祈ス。

塚ノ市外ニ一神社アリ。数年前崩御ノ今上帝ノ父帝ヲ祭ルナリ。構造壯嚴ニシ。巨財ヲ費シ。人工ヲ極ムル所ナリ。神社ハ極テ愜樂スヘキ田野ノ間ニアリ。一方ハ廣漠ナル田畝ナリ。一方ハ杉樹

ノ深林アリ。清閑幽邃ノ地ナリ。遙ニ隔テ山頂ヲ見ル。其麓ニ塚市アリ。立派ニ構造セリ。松林ト神社トノ間ニ一清流アリ。神社ヲ過テ流ル。濶門アリ。其扉ハ漆塗ニテ樹木ヲ現出ス。之ヲ過キテ流ニ至ルヘシ。右側ノ入口ニハ開濶ナル廊下アリ。水ニ浴テ五柱ヲ建ツ。此五柱間ニ四窓ヲ開ク。門ニ近キ窓ヨリ。第二門ノ上部ヲ見ル。之ヲ過テ神社ニ至ル。此四窓下ニ厚壁アリ。自在ニ逍遙スル為ニ立派ナル手摺ヲ設ク。此手摺ハ多分ハ流ニ浴テ植タル樹木ニテ成ル。大ニ意ヲ用アル所ナ

リ。廊下ノ屋根ハ銅甍ヲ列ス。平滑ニ琢磨ス。日光
 ニ映シテ光輝ヲ放ツ。又水門ノ左側ニハ立派ナ
 ル客殿アリ。大柱ヲ三列ス。地上五尺ニアリ。外方
 ニハ柱ハ厚縁アリ。其上ニ壁ヲ墁ス。花草ノ彫刻
 及ヒ巧ミナル三窓ニテ粧飾ス。其屋根亦銅甍ヲ
 列ス。

此客殿ノ側ニ一園アリ。諸種ノ奇草異木。剪摘雅
 趣アリ。数區ニ分ツ。銅柱間ニ二個ノ細長キ畦ア
 ル。板塀ハ上ノ客殿ヨリ流ニ接ス。流ニ沿テ壁ア
 リ。上方斜ニ水ノ溢流ヲ防ク。見分スル窓アリ。壁

ト板塀トノ間ニ一隙アリ。僧徒ノ倉庫及ヒ住居
 ニ赴クヘシ。此類一列ニ三所アリ。前面ハ板林ニ
 向フ。屋根ハ大ニ側壁ヨリ延張ス。六本ノ大柱ア
 リ。此廡下ハ適好ノ遊歩場トナル。又此三所ノ後
 面ニ数種同形ノ長キ住居アリ。頗ル大ナリ。是日
 本僧ノ多ク住居シ。佛ニ奉事スル所ナリ。此建物
 ラ過クレハ。前門アリ。極テ大ニシテ立派ナリ。銅板
 ラ排列ス。

側ニ立派ナル塔アリ。高サ三百尺ニ減セス。八層
 ナリ。上端八角ナリ。各層美室ナリ。各窓アリ。村落

山岳。森林。田畝。及ヒ塚ノ市街ヲ一日遠眺スヘシ。此塔ト廊下トノ間流ニ浴テ結構ナル堂アリ。周圀ノ四壁非常ニ粧飾ス。貴價ナル像ヲ盈ツ。上ハ極テ大ナル四角ナル室トナル。其基礎ハ重大ナルアルドイン石ニテ堂ノ屋根ヲ受ク。各側四柱アリ。柱間ニ三窓アリ。立派ニ塗墁ス。屋根ハ八角トナル。中點尖リテ高ク抜ク。尖端純金ニ成ル。前ノ建物ハ上ニ記スルアルドイン石上ニ安ス。内裡ヨリ工事ノ為ニ寄附スル所。銀ニ万タール本日ノ一タールハ我カ三ギユルデニ年々桐同シ。三ノ一トイフルヲ減スルニテ

日本歴史ヲ檢スルニ内裡ハ全國ヲ領スル所ナリ。然ルニ千五百五十年以來。乱黨踵テ起リ。王政弛綱。帝位鞏固ナラス。是皇子ノ乱階ヲ為ス。因ル所ナリ。其所業增長シ。内裡ハ虚器ヲ擁シ。神事ニ関涉スルノミトナリ。他ハ總テ將軍ノ管轄スル所トナリ。政權其掌握ニ歸セリ。而シテ五六年毎ニ上洛シテ。内裡ニ敬事スルノ意ヲ表スル為ニ進物ヲ呈セリ。銀盞ニテ酒ヲ吞ミ。後之ヲ粉碎シ。其碎片ヲ藏シ貯フ。此ノ如キ習慣ハ日本人ニ於テハ信實服従ヲ表スルニ行フ所ナリ。故ニ帝ニ

内裡ニ於テノミナラス。他ノ内裡ノ近親九族ノ
將軍ヨリ尊貴ナリトスル所ニ於テモ之ヲ行フ
ナリ。
内裡ハ紅襟アル里外衣ヲ着ケ。外衣上ニ綱襪充
満セル袂ヲ着ク。頭上ニ冠ヲ戴ク。之ニ各種ノ刷
毛アリテ彎曲ス。殿内ニ三百六十五ノ佛像ヲ安
置ス。毎夜其一俣ヲ順番ニ卧床ノ側ニ置キ。以テ
内裡ヲ呵護セシム。若シ一二不穩ノ事アレハ其
當直ノ佛ヲ嚴ニ鞭打ス。此ノ如キ處刑ニテハ内
裡ニ不満ナリトシ。更ニ百日間之ヲ宮外ニ退ケ

此日數ヲ過レハ復々舊坐ニ置ク。
此ノ如キ習慣ハ大僧正ニシツトモ行フ所ナ
リ。又ヤコブ。或ハシヤコトモ称ス。是坊主中ヨリ
撰フ所ナリ。共ニ京都ニ住ス。三百六十五佛ヲ置
ク。内裡ノ如シニシツトハトシテスヲ為ス
ノ權アリトシテストハビスコツプト云フカ如
シ。
内裡ハ日々高坐上ニ坐ス。一側ニ刀ヲ立テ。一側
ニ弓矢ヲ立ツ。両手ニ絹節ヲ執ル。前額ヲ飾ルニ
白及黒漆料ヲ以テス。或ハ時ニ黒色上着ヲ服シ

上衣上ニ紫衣ヲ被。其上ニ透明ナル絹衣ヲ被。然レ凡内裡ハ威カアルカ為ニ。土ニ接セス。爪及ヒ髮ヲ短截スルヲナク。死人ヲ見ルヲナシ。其執政官ヲビユンギリスト云フ。内裡及ヒ執政神事ヲ決議スルノ權アリ。日本王公ノ熱心スル位階尊称ヲ得ル為ニ。巨額ヲ捧ケ之ヲ懇請ス。之ニ由テ内裡ハ領地ナク。又貢納ナキモ。日本富有者ノ内ニ算スヘキナリ。何トナレハ大諸侯ハ使節ヲ内裡ノ廷ニ送り。年々之ニ献スル所巨額ナラサルナシ。以テ新采譽ヲ得ントスレハナリ。則チ卑

位ヨリ高位ニ進ムヲ得ルナリ。内裡ニ十二妃アリ。侍婢無數ナリ。各妃ノ為ニ西側ニ六個宛ノ美麗ノ殿堂アリ。毎夜此十二宮ニ於テ。食物ヲ新土器ニテ製ス。絃歌。舞踊。歡樂競ヒ起リ。内裡到ル所ノ殿ニ他殿ヨリ食膳ヲ運輸ス。他ノ十妃皆之ニ来リ會ス。相交テ歌曲演技以テ内裡ノ當夜止宿スル所ノ妃ヲ慶賀ス。凡ソ歡樂ニ供スル諸件至ラサル所ナシ。皆精妙ヲ窮ム。内裡此十二妃中ノ一ヨリ。一子ヲ奉ケ。継位ニ適スレハ。則チニ貴族中ヨリ美乳婦八十人ヲ徵集

ス皇子ノ如キ拔群ナル君ノ乳母タルニ適スル
ニハ驚クヘキ容儀行状ヲ要シ。且ハ大ニ栄誉ト
スル所ナリ。以テ上ノ十二妃。及ヒ内裡ノ血族九
家ニ比スヘキ者トス。之ヲ慶賀スルニ立派ナル
祝宴ヲ開ク。然レ氏翌日ハ八十人中ヨリ。減シテ
四十人ヲ撰ヒ。此四十人中再撰シテ十人ヲ取り
此十人中更ニ精撰シテ三人ヲ擧ケ。従前ヨリハ
更ニ尊崇スルナリ。三日毎ニ交代シテ。毎日一人
其職ヲ掌ル。此新乳婦ヲ祝スル粧飾ヲ詳記スル
ニ難シ。則チ内裡湍宮歡色相應シ。歌曲舞踊珍膳

美味。杯盤狼籍ス。新乳婦ハ尊称ヲ得テ八十人ニ
擢タリトス。是ヲ以テ皇子ヲ養育スルニ適スト
スルナリ。先ツ乳房ヨリ乳汁ヲ搾出シテ。之ヲ皇
子ノ口ニ注ク。尊称ヲ得ルノ後ニ及テ。始テ皇子
ヲ抱クトヲ得ルナリ。

荷蘭使節フリシラス。及ヒブルトクホルストハ
堺及ヒ市外ノ内裡ノ神社ヲ拝シ。海岸ニ浴テ南
海ニ出テ。厄ヶ崎ヲ過キ。兵庫ヲ過ク。是往時ハ繁
華ノ地ニテ。將軍時ニ住セシトアリ。然レ氏火災
ニ罹ル為ニ。非常ニ零落セリト云フ。又右側海濱

ニソオヤ。行島明石姫路及ヒ室アリ。是前回蘭人
陸行シタル所。此地ニテ大ニ饗應ヲ請シ所ナリ。
又入浴セリ。是日本人ノ大ニ施用スル所ナリ。往
時ヨリデン。希臘波斯羅瑪及ヒ他ノ人民モ然リ
シ所ナリ。

就中羅瑪人ハ。大ニ浴場ヲ設ク。羅瑪市中ニハ殆
ント無數ナリ。帝ニ市中ニ之ヲ見ルノミナラス。
凡ソ稍有力ノ人ハ。自家ニ一浴場ヲ構フ。若シ一
場毀損スルカ。或ハ腐朽スレハ。守場ノ者之ヲ修
理スルナリ。又帝家ヨリ浴場ノ為ニ巨額ヲ棄テ

タリ。何トナレハ羅瑪人ハ。布ヲ用フルト少ナキ
カ故ニ。清淨ニスルヲ要スレハナリ。是帝ニ慰樂
ノ為ノミナラス。疲労ノ後。汗及ヒ汚垢ヲ脱スル
ニ要アレハナリ。此浴場ノ底及ヒ壁ハ。常ニ佳香
アル膏ヲ塗ル。水ヲ導クニ銀管。或ハ金管ヲ附ス。
マルキエスアグリバハ。百七十浴場ヲ作りテ。浴
場ヲ供ヘサル者ノ為ニス。然レモ日出後。日没前
ノ外ハ。決シテ之ニ入ルヲ許サス。アドリアニユ
ス帝ハ。病者ノ外ハ朝八時ニ入浴スルヲ禁セリ。
アレキサンドルセヘリユス。羅瑪律ヲ定メ。夜中

入浴スルヲ禁ス。此事ヲ令シ。自ラ浴場前ニ燈火ヲ點セリ。アントニウスデピロソープハ。此場ヲ分チ。男女混浴スルヲ禁セリ。故ニカルタキニシセルスニ於テハ。唯貴人ノミノ為ニシ。平民ノ入ルヲ許サス。然レ氏此區別ハ。羅馬ニハ論セス。雜沓混浴ヲ禁セス。帝自ラ屢蒼氏ト同浴セリ。チエスヘスバシアニエス証スルカ如シ。尋常浴湯ノ騷擾ハ。劇甚ニシ。監守人為ニ聾スルニ至ル。是ニ於テ野生リユベイン實ヲ火中ニ焚テ。頭痛ヲ発シ。且ツ臭氣ヲ以テ。浴客ヲ驅逐スルニ至ル。トアルナリ。

使節是ヨリエシマ。及ビオタ諸島ノ間ヲ過キ。牛窓ニ近接シ行ク。茲ニ記スヘキトアリ。今回航行中屢見ル所ノ蛇ト蟻トノ鬪争ナリ。此二蟲ハ日本船ニハ常ニ夥シク存スル所ナリ。就中蛇ハ某ノ地ニテハ極テ夥シク。全地ニ充滿スルニ至ル。トアリ。ブリニエス曰ク。モリレンシナモルギニ無人ノ一大地アリ。蛇蟲ノ領スル所ナリ。ニカンデルハ。此蟲ニ八種アリト云フ。皆後身ニ毒刺ヲ具ス。尾ニテ大ニ螫ス。亞刺伯人ノ説ニテハ。若シ

人ノ上身ヲ損傷スレハ。腋下腫レ。胃中頻ニ噯氣
ヲ癸ス。然レモ下身ヲ螫セハ。風氣腹滿。陰莖勃起。
淫情暴動ス。ガレニユス氏自テ此毒螫ヲ冒ハリ。
全身強直水ノ如ク。大汗ヲ癸シテ昏妻スルニ至
レリ。此虫遊行シテ土中ノ脂液ヲ吸フアリスト
テレスノ説ニテハ。此蟲生産スレハ。必ラス其母
蟲ヲ殺スト。各地ニ於テ其毒ノ劇易一ナラス。以
太里人及ヒ埃及人ハ。良食ヲ共ヘテ之ヲ飼フ。毒
蟲ノ螫刺ニハ。家鼠ヲ截リ殺シテ之ヲ創上ニ置
ク。或ハ燔キタル蠶又バノベール河名及スト口

ノムケレトフト蟹ノ類ヲ酒中ニ浸シ之ヲ置ク。以
テ其毒ヲ除クヘシトス。又蛇ニテモ他ノ毒蟲ニ
テモ其創上ニ其刺傷シタル蟲ヲ生ナカラニテ
モ死シタルニテモ貼シ置ケハ之ヲ治スト。又美
味ノ食物ハ毒ヲ制スルノ特異効アリ。右モ驚ク
ヘキハ古哲アムプロシテスノ説ニ曾テ獅子ヲ
殺シタル蛇貴アリ。後蟻ノ為ニ殺サレタリ。
大阪ヨリ長崎ニ赴クノ水路ニ於テ屢見テ驚キ
タルハ蛇アリ群蟻ノ環状ニ圍繞スルニ逢テ道
ルニ路ナシ。蟻則チ蛇ノ足ニ咬ミ付キ終ニ頭ヲ

大阪ヨリ長崎ニ至ル
水路ニ蛇蟻ノ事
ヲ見ル

刺シテ之ヲ殺ス。是ニ於テ群蟻退散ス。之ヲ熟視
スルニ。蟻黨相援ハントスルキ。後邊ヨリ脚ヲ進
メ。口ヲ前ニ挺出ス。他蟻アリ下ヨリ蛇体ヲ擡ク
而シテ新蟻来リテ疲勞セル者ニ交代ス。
使節ヲリシウス。及ヒブルークホルスト。更ニ進
行シヒバシシヤサムニク。白石カロト。諏訪ヨウ
エ。毛宮ノ島。武庫及ヒメトガマ諸島ヲ經過ス。右
側日本海岸ニ備後備中メワリタントノミヨコ
ジミカミナガリ。上ノ関下ノ関アリ。海上彼此ニ
散布セル多数ノ諸島ニ。日本漁者アリ。多クハ其

婦ヲ伴フ。漁者ハ禿頭ナリ。唯頭ノ周縁ノミニ髮
毛アリテ冠ノ如ク。猶ハウスドムニ於ケル剃頭
ノモンニツケンニ異ナラス。其衣ハ胸前ニテ衿
ヲ交シ。中部ヲ潤キ帯ニテ緊束ス。帯間ニ大ナ
ル一刃ヲ佩フ。肩ニ天秤棒ヲ横フ。其両端ニ四角
ナル箱ニ水ヲ盛タルヲ掛ク。此箱内ニハ魚ヲ生
養シ。以テ行販ス。婦人ハ頭圍ニ布片ヲ纏フ。前ニ
尖端アリ。四角ノ胸中ニ。日本製ノ織出シタル草
花ヲ現ス。後邊背ニ長キ木綿巾ヲ掛ク。頭ニ束ヌ。
上衣ハ腰ニ纏ヒ。溜ク長ク踵ニ及フ。履ハ後邊ニ

彈ヲ具ス大趾間ニ鼻緒アリテ固定ス。

フリシウス及ヒブルークホルスト終ニ海峡ヲ

過キ一方ハ日本ノ海濱下ノ関ニ入り而シテ前岸

ハ豊後大島アリ角ニ入海アリ小倉トス是ヨリ

高麗海ニ通スシノシマト豊後地方フシマトノ

間ヨベコアウロ平戸セツ山瀬戸及ヒ福田ヲ

過テ午六百五十年五月二十日長崎港ニ着セリ

和蘭人一同ノ無事ナルヲ喜フ然レモ日本人ノ

習慣ニテ和蘭船ハ押柄ナル處置ヲ請ク則チ坊

主山低礁デビシネノツトコイケンズノ間ニ入

リ三個ノ水柵ニ浴テ長崎ニ背向シテ發砲スル

二三回次テ日本小舟三艘兵士ヲ載テ本船ニ表

ル凡ソ乗組ノ人員ヲ悉ク甲板上一列シ各人年

齡職務ヲ紀問シ再ヒ房ニ入ル故ニ各人綿密ニ

己レノ室ニ在テ動カサルベシ他房ニ在レハ則

チ殺サル

既ニ長崎ニ投錨スレハ再ヒ放砲シ旗ヲ直立ス

日本人端舟ヲ卸シ之ヲ引キ去リ後日出帆スル

ノ時ニ至ルマテ敢テ之ヲ戻サス更ニ日本船ニ

艘アリテ本船ノ前後ニ密附ス共ニ兵士二人ヲ

載テ晝夜看護ス。大暴風アルニアラサレハ本船
ニ入ルナシ。
翌日船ヲ長崎ニ進ム。奉行衆船内ニ入り来ル。為
ニ伯帯比亞ヨリ輸リ来ル立派ナル敷物上ニ着
坐ス。而シテ船内全貨物ヲ點檢ス。時ニ應シテ包捆
囊及ヒ櫃ヲ開クアリ。之ニハコンパニンス
クールチリンスト稱スル日本雇奴ヲ用フ。阿蘭
人敢テ手ヲ下スナシ。又敢テ之ヲ制スルナシ
ハス。船主及ヒ商官ハ唯室ニ在テ之ヲ傍觀スル
ノミ。日本水夫頭諸事ヲ指揮スルナリ。

日本雇人ハ日々十ストイフルヲ要ス。日出ヨリ
日ノ西山ニ傾ク迄働作ス。此人民ハ東印土商會
ノ記章ヲ附スル四角ナル木札ヲ側ニ佩ス。和蘭
倉庫ニ赴クヘキ門ヲ看護スル番卒三奉行者ヨリ此諸輩阿
渡シタル日本字ヲ記スル鑑札ヲ佩ス。此諸輩阿
蘭貨物ヲ運搬シ又船荷上ケ卸シニ従事ス。奉行
ヨリ全權ヲ撰ヒ各自ニ各々ノ所務ヲ司トラシ
ム。
船荷ヲ卸スニハ尤モ注意スヘキナリ。絶テ十字
若クハ坊主ニ關係スル粧飾ヲ具スルナ勿ルベ

シ。若シ此等ノ品存スルヲアレハ。全船貨物及ヒ
生命ヲモ失フニ至ルナリ。和蘭貨幣及ヒ書籍ヲ
檢スルト尤モ嚴ナリ。故ニ未船日本ニ方ニ近接
スレハ。各人其貨幣及ヒ書籍ニ。各々名刺ヲ貼シ
之ヲ船主ニ托ス。船主之ヲ櫃ニ納メテ封印スヘ
シ。日本人荷物ヲ卸ス時ニ。更ニ裝彈スルヤヲ檢
スル為ニ打砲ス。砲ヲ引キ揚ケ。害心ナキヤヲ檢
ス。火繩。彈筈。小銃。大砲。鎗劍等。凡ソ兵器ニ屬スル
者。悉ク携ビ去リ。前ノ貨幣及ヒ書籍ト共ニ。何ノ
所ニ貯フルヤヲ知ラス。

本船ノ板戸ニモ。將軍家ノ記章アル封印ヲ附ス。
故ニ阿蘭人復々之ヲ開クヲ得ス。又通路ニ方
テ四角ナル板ヲ釘ス。此上ヲ歩スル者ハ。必ラス
危害ヲ招ク。船後日出帆スルキニ。此封印及ヒ板
ヲ奉行ニ示ス。其安否ヲ檢セシムル為ナリ。賄方
水薪或ハ他品ヲ要スルキ。信號ニ應シテ。一証士
和蘭商館ヨリ月々ナニ。長崎出島ヨリ本船ニ奉
ギユルヲ給ス。テ。求ムル所ヲ問フテ之ヲ給ス。
十月開高日輸入貨物ノ目錄ヲ。長崎各所ニ揭示
ス。開高ハ鐘ヲ鳴ラシテ之ヲ報ス。此音ヲ聞テ群

人輻湊ス。長崎ノ紳士ト。豊後ノ人トハ。言語及ヒ
衣服。他ノ日本人ニ異ナル所アリ。豊後人ハ粗ナ
ル木綿帽ニテ頭ヲ包ミ。衣服ハ他ノ日本衣服ノ
如クニ長カラス。又濶カラス。豊後人ハボイルス
ニ異ナラス。其衣服ノ衿ハ胸ニテ交セシ。中間濶
キ帯ニテ纏フ。長キ紐ヲ脇ニ垂ル。婦人ハ散髪ヲ
頂ニ束ネ。肩ニ垂ル。腰上ニ濶キ帯ニテ衣服ヲ纏
フ。帯下ノ衣ハ花アル木綿ニ成ル。羊脚ニ下ル。前
垂ノ中ニ廣ク開ク。之ニ傍フノ下衣ハ。前垂ト共
ニ縫帛シタル粧飾ヲ見ル。

開高日ニ近ツケハ。荷物ヲ解キ。月曜ハ縦覽日ナ
リ。東印土高會ノ倉庫ヲ開キ。銀盃内ニ鹿皮。エ
ラ。ンド皮。木綿類。精密ニ愉快ニ帽子。水銀。程々。緋
蕨木。乾菜。琥珀。鯨糞。麝香。東京ベリリング。及ヒ他
ノ諸品ナリ。上ニ記スル銀盃ヲ臺上ニ置キ。廊下
ニ排列ス。出島阿蘭倉庫中ヲ通過ス。此倉庫ハ分
テ三百部ト為ス。貯藏スルニ適ス。總テ土造ナリ。
毎夜日本紳士ノ眼前ニテ將軍ノ記章ヲ印ス。此
紳士ハ開高中阿蘭人ト共ニ食事ス。日本人ニハ
銀盃ヲ供ス。阿蘭人ヨリ給スル所ナリ。開高間三

百人以上ニ及フ。

最ナル廊下ハ四角ナリ。高サ十二尺。檜木ノ削リタル柱上ニ安ス。廣キ廻リ階アリ。柵ニテ囲ヒ之ニ導カシム。廊下ノ床ニハ高價ナル毛氈ヲ敷ク。見本臺ノ周圍ニ絹蒲團アル。檜木製ノ椅子ヲ列ス。之ニハ東印土商會ノ記章ヲ現ス。日本商人見本臺ニ坐スル前ニ靴ヲ脱ス。蓋シ敷物ヲ汚サハル為ナリ。見本臺ハ廊下ノ中道ニ置ク。月曜日開店スレハ翌日之ヲ賣ル。水曜日官車ニテ貨物ヲ輸送ス。水曜日阿蘭倉庫ノ水門ヲ開キ百艘ノ小

舟ニテ日々荷物ヲ運搬スルニ従事ス。日曜ハ休日トス。此日日本人キリス「テシ」ニ參詣スルアリ。此ノ如キ高事連一月ナリ。同時ニ出島ニ市場ヲ開ク。日本人其買フ所ノ品ヲ以テ賣ル所ノ品ト會計吏アリテ之ヲ精算ス。其購求スル品ハ樟腦樟木日本箱及ヒ羽織銅銀土茯苓陶器及ヒ諸般ノ銀器ナリ。常例高事終レハ阿蘭船ハ甲板上ニ荷物散亂シテ未夕整頓ニ至ラサルモ直チニ海上ニ出サルヲ得ス。逆風暴雨ナルモ敢テ之ヲ論スルナシ。若シ毎夫迅速

ニ調理セサレハ。各舟ニ百人以上ヲ載テ。数舟ニ
テ本船ヲ引テ。坊主山外ニ出サシヤ。晝夜ヲ論セ
サルナリ。フリシウス。及ヒブルークホルス。此ノ
如クニ。ソ船ヲ舩シ。出帆シテ終ニ阿蘭ニ赴ケリ。

